

げんこつ団

『パセリ』

2019年11月14日～18日 駅前劇場

一十口裏

舞台上は、リフォーム中の部屋。
壁紙が剥がされた、木材が剥き出しの壁に囲まれており、その壁からはいくつか、パイプが突き出している。床には所々にブルーシートが敷かれ、木材や建築資材、ガラ袋やバケツなどが、転がっている。

上手奥の奥は、この建物の入り口に繋がる出捌け口。上手端の手前は、他の部屋に繋がる出捌け口。下手奥には庭に繋がる、縁側的な凹んだスペースがあり、建築資材などと共に、二人ほどが腰掛けられる箱がある。

上手奥の壁には、壁紙がある程度残っており、そこが映写スクリーンとなる。舞台上には四角い箱が四つ、無雑作に置かれている。

舞台奥中央の剥き出しの壁の横軸には、鉢植えのパセリが一つ置いてある。舞台奥下手の剥き出しの壁の横軸には、ラジオが置いてある。

開演時刻になると客入れ音楽がフェードアウトし、ラジオ時報が鳴る。
※客入れ中、客出し中、及び、劇中に使われる音楽は全て、ラテンジャズかボサノバ系。

ラジオMC
えーお昼の時間になりました。今日もわたくし、上皇アキヒトがお送り致します「ルンルンおことばカフェ」で、共におきもち、リフレッシュ（エコーがかかる）

「君が代」をポップにアレンジしたほんの短いジングルが鳴る。

ラジオMC
はい。そんなわけで、わたくし今ちょっと珈琲をこぼしてしまいましたけど（笑）大丈夫ですか（笑）

ラジオMC
今日もこのミッチーと一緒にね、やって参りますのでね。よろしく願います。

ラジオMC
皆さまどうぞ、スマートフォンやら音の鳴るものの電源はね、必ずお切りになって下さい。

アシスタント
また飲食や撮影録音なんかもね、おやめになって頂きたいです。お願いします。

アシスタント
さて。今日も、毎日お仕事頑張ってらっしゃる皆さまに憩いのひとときをお届けしたいと思っておりますが、

ラジオMC
その前にまずはちょっとね、日本の平和と繁栄をお祈りしたいと思います。

敵かな笙の音が鳴る。

SCENE 『青葉邸 縁側』

下手奥のスペースに、リフォーム作業の休憩に入った、作業服の男が二人、弁当を持ってやって来て箱に座り、弁当を広げ始める。

男1は座った瞬間から一定のリズムで片足を揺さぶり、一定のリズムで床を鳴らす。

男2は何かが気に入らないように、一定のリズムで首を捻る。

男1の鳴らす足の音だけがしばらく響き、

男2は首を捻りながら、男1に話しかける。

男2 あの、すみません、
男1 あ？

男2 その足、やめてもらえませんか？
男1 は？

男2 ちよつと…。(と、首を捻り続ける)

男1 ああ…。(と、動き続ける自分の足を見る。見てから)悪いね。俺、ここにあるから。心臓。
男2 え？(首の捻り、ぴたりと止まる)

男1 だからここに。(動き続ける自分の足を指差す)

男2 (少し間。そして)ああ…。(納得したのか首の捻りを再開し、弁当を広げ始める)

男1 (足を鳴らしながら、男2の首の捻りを気にし始める)

男2 (鼻歌を歌いながら弁当を広げる)

男1 え。お前、そこ？
男2 え？

男1 だから、そこに？(男2の首を指差す)

男2 あ、はい。

男1 (足をぴたりと止める。少し間。そして足の動きを再開する)そっか。

そして二人、再び弁当を広げ始める。広げながら。

男1 そんなところに。

男2 先輩こそ。

男1 俺、今、ちよつとびっくりしちゃったよ。(少し笑いながら足をさする)

男2 俺もです。(少し笑いながら首をさする)

作業員の女がやって来る。

女 あ、お二人ともそんなところでお弁当ですか？

男1 ああ。(女を見て、足の動き〔床の音〕早まる)

女 女子はあっちで食べるんですけど、一緒しません？

男1 え。(それを聞き、足の動き〔床の音〕大きくなる)

女 (男2に言う)：サキちゃんが、沢山おかず作ってくれたんですよ。

男2 えっ、サキちゃんが！(首の捻りが、早く大きくなる)

女 (男1に言う)私も。ちよつと多めに、持って来ちゃったんで…、だから…

男1 えっ、ああ、そうなんだ。(足の動き〔床の音〕激しくなる)

突如、ポコンポコンと低く不穏な音が、どこかから聞こえ始める。

男2 (音に対して)え……

女 (恥じらって)あっ、ごめんなさい！私の心臓、あそこにあるんで。

女、恥じらいながら、部屋の中の、斜め上を指差す。

男2 えっ！どこ？

女 (恥じらいながら)この家の、基礎部分と屋根を支える、大事な柱と、梁の中心辺りです。

女が恥じらう分だけ、ポコンポコン音は更に早まり大きくなり、やがて建物の崩れる音がし始める。

男2 (音に驚きつつ) えっ! どこ?
女 (恥じらいのまま) じゃ私、先、行ってますね! (走り去っていく)
男1 あっ、ちょっと待って、俺も、(弁当をまとめ、足の動きを止められぬまま追っていく)
男2 あっ、ちょっと、(弁当をまとめ、思わず立ち上がるも、首の捻りは激しくなっていく)

建物の崩れる音も、さらに激しくなる。

男2 どこ! (首を激しく捻りながら、二人を追って去っていく)

SCENE 『青菜邸 リビング 1』

三人が去ると、雷鳴が鳴り始め、豪雨が降り、
建物の崩れる音は治まっていく。

そして雨の音のまま、ラジオが再び聞こえ始める。

ラジオMC はい。というわけで。日本の平和と繁栄をね、

アシスタント わたくしまたもや、お祈りしちゃったわけなんですけれども (笑)

ラジオMC 余計なお世話 (笑)

ここで一旦、ニュースです。

作業着を来て、首にタオルを巻き、軍手をした菜子。

弁当箱を持って、下手奥からやって来る。

弁当箱を箱の上に置き、電ノコ拾って部屋に入ってくる。

キャスター はい、ニュースです。

先ほど政府は新しい税制として「同意税」の導入を決定しました。

これにより今後、全国民は、同意をする分だけ、税金が課せられます。

菜子は「同意税」と耳にした所で立ち止まり、ラジオを見つめる。

キャスター よろしいですか?

アシスタント いいえ。

キャスター よろしいですね?

ラジオMC いいえ。

葉香たちが、声をあげながら上手奥より走り込む。

葉香1 やだもつ、すげ濡れた。(服の雨をはらうなど)

葉香2 急にも。(服の雨をはらうなど)

キャスター よろしく、ないですか?

アシスタント いいえ全然。

キャスター よろしくない、で、よろしいですね?

ラジオMC いいえとんでもない。

菜子 (ラジオを消す) ごめんね。私の心臓、今ちょうど高気圧の真ん中で脈打って

上昇気流を巻き起こした上、積乱雲を急激に発達させたから。

葉香2 ……は?

葉香ら、室内を見て驚く。

葉香1 ねえ。つか。母さん、何これ…

葉香2 何なの、どしたの…

菜子 え？

葉香1 (菜子の姿を見て驚き) 何やってんの

葉香2 (菜子の姿を見て驚き) どしたの

菜子 何ってリフォームよ。

葉香1 え、もう始めちゃったの？ え、勝手に？

葉香2 嘘でしょ？ ほんとに？

菜子 何なのよ。連絡したでしょ？

実乃が、マグカップを二つ持って上手前から入って来る。

葉香1 信じらんない、勝手にこんな、

葉香2 相談くらいしてよ、

菜子 (葉香2に) だって葉ちゃん。

葉香1 ラインもらって私「すぐそっち行く」って、返信したじゃん。

葉香2 そしたら母さん「分かった」って、返信したよね。

葉香1 そしたら普通、私に来るなりしてから決めると思うよね。

菜子 (葉香1に) だって葉ちゃん。

葉香2 まさか勝手に始めてるとは思わないじゃん。

実乃 葉ちゃん、

葉香ら (反応)

実乃 おかえりー。

葉香1 ねえ、みいちゃん。いつから？

葉香2 知ってた？これ。いつからなの？

菜子 (電ノコを床に起き、壁を叩くなどし始める)

実乃 いつからって、もう二、三週間前だよ、工事始まったの。

壁は全面ぶち抜いて、広いリビングにするんだって母さんが。

葉香1 ああ…(菜子を見る)

葉香2 でもだって、まさかこんなに大掛かりとは思わないじゃん。

葉香1 あ。私の部屋は？ 私の荷物、あつたでしょ？

実乃 知らないよ。あってももう要らないもんばっかでしょ？

葉香2 いや。でも思い出とか、色々あるじゃん。

実乃 全部、捨てちゃったよね。

葉香1 え

実乃 面倒くさいから全部。私のも。お姉ちゃんのもだよね。

菜子 ああそうね。(軍手を外しタオルを外し、汗を拭くなどし始める)

実乃 お姉ちゃんの変なCDとかも。

葉香2 マジか。

葉香1 変なって何だよ、思い出だよ。

実乃 すぐに帰ってこないのがいけないんだよ。(菜子にマグカップを渡す)

葉香2 でも普通、我が子のもんって大事にしときたかったりしない？

菜子 すぐに帰って来ないのがいけないのよ。(マグカップを受け取る)

葉香1 (実乃に) で、あなたは何してんの。こんな、こんな状態の家で。

菜子 (葉香2に) お正月だって、お盆だって、

実乃 (葉香1に) 何って別に？

菜子 (葉香2に) あんた何年帰ってきてないと思ってんの。

実乃 (葉香1に) ちょっとのんびり？
葉香1 (実乃に) え、まさかこの状態で住んでるの？ここに？
実乃 (葉香1に) だってしょうがないじゃん。他に家ないし。
菜子 (葉香2に) あんたもう何年帰ってきてないと思ってるの。
葉香2 (菜子に) 私だって。もう。色々あんだよ。(箱に座る)

葉香1、改めて部屋を観察する。

葉香1 ああ…。食器棚とか筆筒とかも…。っていうかほんとに、なんもないじゃん。
実乃 だって全面リフォームだもん。全部新しくするんでしょ？(箱に座る)
葉香1 ほんとに全部、捨てちゃったの？
菜子 だってもう随分古くなっただしね。(箱に座る)
葉香1 そんなこと。
菜子 カビちゃったりね、あと虫食いとかも。
葉香1 嘘でしょ…。(箱に座る)
実乃 で？ お姉ちゃんは何に？ どうしたの？
葉香2 え？
実乃 どうしたの？
葉香2 何が。
実乃 だって。
葉香1 別に何も無いよ。
菜子 分かれたんでしょ。
葉香1 えっ！
実乃 やっぱり！ 結局、分かれたんだ。
葉香2 分かれてないよ！
実乃 えー？(葉香二人を指差して) 分かれてんじやーん。
葉香1 (実乃の手をピシヤリと叩く)
菜子 もうこの子は、分かれてばかりで。

葉香3と4、葉香1と2と全く同じように、部屋に走り込んで来る。

葉香3 やだもーすげえ濡れた。
葉香4 急にもー。
葉香3 (部屋を見て) うわ！
葉香4 (部屋を見て) 何これ！
菜子 リフォームよ。

葉香5と6、葉香1と2と全く同じように、部屋に走り込んで来る。

葉香5 やだもーすげえ濡れた
葉香6 急にもー
葉香5 (部屋を見て) うわ！
葉香6 (部屋を見て) 何これ！
菜子 リフォームよ。
実乃 葉ちゃん、おかえり！

先ほどの葉香1と2全く同じ反応で、同じような文句を口々に言いながら、室内を見渡し、ウロウロする葉香3、4、5、6。

菜子 ほんに見なさい。あんたこんなに、沢山、分かれて。
実乃 ねえねえ(近くの葉香3を捕まえて)お姉ちゃんはいつになったら一緒になるの？
うるさいな。

葉香4 (ウロウロしながら)私の荷物は？

菜子 (葉香4を追って)ね、あんたもいかげん身を固めないよ、

葉香5 (ウロウロしながら)私のCDは？

菜子 (葉香5を追って)ね、あんたこのままでこの先、

葉香6 (ウロウロしながら)結構あったでしょ、CD。

菜子 (葉香6を追って)ね、母さんほんとに、

葉香1 あー！ そういえば茎(けい)ちゃんは？ 茎ちゃんはどうしてるの。

葉香2 あー！ 確か随分前に、ゴールイン間近とか言ってたっけ。

葉香1 言ってた言ってた。

葉香2 ねえどうしたの？

実乃 けい姉ちゃんはおの、フェードアウトしたってさ。

葉香1 え？

実乃 フェードアウト。

菜子 残念ね。

葉香ら …？

実乃 ゆっくりとね、静かに消えていったよ。

葉香2 え？ 消えていったって…

少し間。

菜子 (葉香1に)ね。だから葉ちゃん。あんたはそろそろちゃんと一人に落ち着いて。
葉香2 じゃ。みいは？ みいは今どうなのさ。

菜子 ああ、みいちゃんはダメよ。いつまでもふらふらしてて。

葉香1 ふらふらして。それでも、

菜子 ダメよ。これだって単なる気配だもの。

葉香2 えっ(実乃に)そうなの…？

実乃 うん。(ゆらゆらと揺れる)

葉香1 えっ。(辺りを見回す)じゃ、実体は…？

菜子 知らないわよ。

実乃 (ゆらゆらと揺れて漂い始める)

菜子 もう気配だけよ。いったいどこで何やってんだかさっぱり。

実乃が舞台の手前を漂い、一番隅に立っている葉香6、
そこに後ろ向きに置いてあるCDボックスに気づく。

葉香6 あっ、私のCDボックス！

口々に声を上げ、駆け寄る葉香ら。

菜子 ああそれ、「桂枝雀の落語傑作選全十二巻」。

葉香ら止まり、菜子を見る。

葉香5 なんて。

菜子 え？

葉香4 他はなんにも残ってないのに。

葉香3 なんてこれだけ。
菜子 知らないわよ。たまたまよ。

落胆する葉香5。葉香6、CDボックスを下手奥に思い切り投げ捨てる。

葉香2 そういえばお爺ちゃんは？ あれ、お爺ちゃんですよ。
菜子 ああ、二階の寝室よ。いつもそこに。
葉香3 でも…(部屋の斜め上を見上げて) お爺ちゃんの部屋、ないよ。
菜子 え？(斜め上を見上げて) あら……

その、部屋の斜め上は、先ほど崩れたらしい場所。

葉香ら、斜め上の無残に崩れた様子と、それをただ見上げる菜子を見てから。

葉香6 お爺ちゃん？ お爺ちゃん！

思わず口々にお爺ちゃんを探しながら、下手の奥に走り去って行く。

その中、箱に座ったままお茶を飲む母を、立ち止まって、見つめる葉香1。
少し間のこと。

葉香1 ねえ。どうしちゃったの、母さん。
菜子 なにが？
葉香1 なんてこんな。
菜子 なんてって、だから、随分古くなっちゃったのよ。
葉香1 だからって。
菜子 ね、父さん。

音楽が小さく鳴り出す。菜子はお茶を飲む。

葉香1 ねえ。ちよっと。
菜子 (お茶を飲んでいる)
葉香1 もう。黙ってないで何とか言ってみよ、(パセリに向かって) 父さん！
菜子 (パセリに駆け寄り) ねえちよっと父さん、母さんにちゃんと行ってば。
葉香1 父さんは母さんに賛成です。(パセリに) ねー。
菜子 (パセリに) えっ嘘でしょ？ ほんとに？ ほんとなの？ 父さん。

二人、パセリの返事を少し待つ。しかしパセリ答えず。

菜子 さ。あんたも、お茶、飲むでしょ？(と、上手前に去っていく)
葉香1 え。ちよっと待ってよ、父さんも来てよ！(と、菜子を追って去っていく)

実乃が一人残ったまま、音楽大きくなり、映像イン。

FILM (OPENING)

タイトル。廃墟。廃墟に植物が蔓延り始めている様子。
その以前の姿か、築年数の古い家。リビング、ダイニング、台所、子供部屋。
そのどの部屋にも、パセリが居る。

SCENE 『青葉邸 リビング 2』

映像カットオフと同時に、ピー、ピー、ピー、という音。
そしてかすかに音声が聞こえてくる。

音声 AEDからパッドを取り出して下さい。AEDからパッドを取り出して下さい。

ピーピー音が続く中、リフォーム作業員の桜井と藤田が下手奥からやって来る。

桜井 なにやってんだよ。

藤田 ちょっと目を離した際に、

桜井 目を離すなよ。

藤田 だっていきなり三人も倒れたから、

桜井 心臓発作だろ、早く蘇生しないと。

藤田 わかっています、だから俺さつきスイッチ入れて、

桜井 あ。音が近い。

二人、菜子の置いていった弁当を見る。

藤田 あ。

藤田が急いで弁当の包みを開けてみると、それは弁当ではなく、AED。

音声 パッドを青いシートから外して下さい。パッドを青いシートから外して下さい。

藤田 なんてこんな所に。

桜井 いいから急げ！（と、AEDを開けてパッドを青いシートから外す）

音声 二つのパッドを青いシートから外したら、

桜井 パッドをそれぞれ、右翼と左翼に、貼り付けて下さい。

音声 （AEDとパッドを持って走り出したが、立ち止まる）

桜井 パッドをそれぞれ急進的な右派と左派、保守と革新に、貼り付けて下さい。

桜井 （振り返って藤田を見る）

音声 電気ショックにより、その偏向や矛盾や自己矛盾によって生じる無駄な対立と紛糾を解消し、

適正な議論や改革の見込める国となります。

藤田 え…？

意味が飲み込めないまま、顔を見合わせる桜井と藤田。

ピーピー音、激しくなる。

音声 直ちにパッドを貼り付けて下さい、直ちにパッドを貼り付けて下さい。

桜井 直ちにパッドを貼り付けて下さい。直ちにパッドを貼り付けて下さい。

藤田 早くしろ！（AEDとパッド藤田に渡す）

桜井 あ…、でも…（それを持ったままウロウロ走り出す）

藤田 早くしろ！

実乃 あ…、はい…！（とりあえず上手奥に走り去っていく）

いってらっしゃい！

ピーピー音が遠ざかり、同じく作業員の木村、下手奥からやって来る。

木村 あ。今、救急車が到着しまして、三人とも。

桜井 無事か。
木村 はい、命に別状はないそうです。
桜井 良かった。
木村 良かったです。
桜井 (弁当の包みを肩にかける) …じゃ。作業再開するか。
木村 え。
桜井 だって後は俺たち、何にも出来ないだろう。
木村 あ…、はい。そうですね。
桜井 おい！ 再開するぞ。予定より遅れてんだから。

下手奥から、同じく作業員の杉山と菊池、上手前からは菜子が、
工具や図面を持ってやって来る。菊池は女性。

杉山 はい、すみません！
菜子 了解っす！
木村 じゃ、こっちの解体から、
菜子 了解っす！
桜井 本来は俺無しで次の工程まで行く予定だったろ、ただでさえ人少ないんだから
杉山 はい。
菊池 (桜井に図面を見せて) すいません、こっちはまだいいんですよ。
桜井 ああ、そっち終わってからだ。
菊池 はーい。
菜子 (声を上げて壁を倒そうとする)
桜井 (菜子を見て) ん？
菜子 (声を上げて壁を倒そうとする)
杉山 ああ。なんか助っ人で来てくれてるみたいで。
菜子 (壁を倒せず、桜井が目に入る) あ、すみません！ それ自分の…

菜子、桜井に駆け寄り、弁当の包みを奪い、下手奥を見る。

菜子 あれ？ 自分の弁当箱は…
桜井 ああ…。あれは、弁当箱じゃなかったぞ。
菜子 えっ？

解せぬ様子の菜子。菜子の肩を叩き、静かに頷く実乃。まだ解せぬ菜子。
そこに、作業着姿でリュックを背負った花井、上手奥から部屋に入ってくる。

花井 あ。失礼します。今日から一週間、派遣でこちらに…
桜井 ああ！ なんだっけ。花井くん？
花井 はい。そうです。
桜井 助かるよ、よろしく！

皆、口々ににこやかに挨拶。

花井 よろしくお願ひします！
杉山 (木村に) じゃ、今日の段取り、教えてやって。
花井 (木村に) お願ひします。
桜井 (杉山に) おい、そっち終わってんのか。
杉山 ああ、もうさっき、

桜井 早くしてくれよー。

それぞれ、自分の作業を再開。

花井 (荷物下ろしつつ木村に) あ、この仕事、長いんですか？

木村 え？ ああ、大学出てすぐこの会社入ったからまあ、それなりに？
へえ。じゃ、正社員さんなんですね(菊池に) あ、そちらも、

菊池 (笑って) ううん。

木村 (笑って) まさか、違うし。

杉山 (笑って) 違う違う。

花井 (笑って) あ、じゃあ、

杉山 うん。生(なま)社員

花井 え？

菜子と実乃、杉山を見る。

木村 よく間違えられるんだけど、

花井 …なま？

杉山 ああ。生物(せいぶつ)の生(せい)の方ね。
…。

木村 彼が生(なま)社員で、俺は焼き社員。で、そっちが茹で社員で、
菊池 よろしく。

桜井 俺は、煮社員な。

花井 え？ じゃあ…(辺りを見回す)

桜井 あとは、蒸し社員と炒め社員と、揚げ出し社員と、和え社員かな。
杉山 そうです。

菊池 で？ なんだっけ？ 花井さんは。

花井 え？

菊池 何社員だっけ？

花井 あー俺は、派遣の…

杉山 あ、かけ？ かけ社員ね。

木村 よろしくね。

初老の男、どんぶりと麺つゆを持って、やって来る。

花井 (初老の男に気づき) あ。

桜井 さ。仕事仕事。急げよー。

それぞれ、自分の作業を再開。

初老の男、どんぶりと麺つゆを持って、花井に近寄っていく。

菜子と実乃、それを見る。

花井 (桜井に近づき) あ、あの…

桜井 (作業をしながら) あ？

花井 この人、麺つゆ持ってます。

桜井 (作業をしながら) あ？

杉山 (菜子に) あ、そっちはお願いします。

菜子 あ、はい…。

木村 (花井に) おい、花井くん！ とりあえずそこんとこ、削っておいてもらえん？

花井 あ、はい…

トングを持ち、紙の前掛けを下げた中年男、やって来る。

花井 (中年男を見て) あ。

桜井 おい、そっちまだだぞ。

杉山 あ、すいません。

木村 こっち、残しでしたっけ？

杉山 ああ、残しで。

トングの男、トングで木村を捕まえようとし、木村、するりと避ける。

花井 えっ、焼かれるんですか、

菜子 えっ、

菊池 (花井に触れて) はい、これ図面ね。まだ修正入るみたいだけど、一応見といてね。

花井 (菊池の触れた部分を拭って) …茹で汁？

桜井 (花井の手を取り) いやでも助かった。ほんと人手不足でさ。よろしくな。

花井 (手の匂いを嗅いで) …煮汁？

菜子 えっ、(思わず花井の手を嗅ぎに行く)

桜井 (菜子に) あ、すいません、そっちお願いします。

菜子 あ、はい、

木村 おい、花井！ そこんとこやっつけて。

それぞれそのまま作業続けるが、下手から、揚げ物の音と、男の断末魔が聞こえる。

花井 えっ…、あ、揚げ出し社員の方が、揚げ出し社員の方が…！

木村 どうした花井、

初老の男、花井に麵つゆをかけようと突進してくる。

花井 あっ、麵つゆをかけないでください、あっ、ちょっと麵つゆを、やめて、ちょっと！

花井、思わず逃げて下手奥に去っていく。それを追う麵つゆの男。

桜井 あっ、おいちよっと、どこ行くんだよ！

杉山 え、どうしたんですか、

菊池 あ、図面、持っつかないで、

木村 おいこら、花井！

菜子と実乃以外、花井を追っていく。トングの男、また木村を掴み損ねる。

菜子を巻き込む形で、下手奥に走っていく作業員ら。目眩を起こす菜子。

菜子 ああ、ごめん、父さん。お水、持ってきてくれない？ なんか、

パセリの返事を待つ少しの間。

菜子 ちょっと父さん、

葉香7、上手前からやって来る。

葉香7 母さん、どうしたの。
菜子 あ、葉ちゃん、あんたまた分かれたの？
葉香7 うん。どうしたの。
菜子 ごめん。なんか、フラフラして。
葉香7 もう、解体作業とかやるからだよ。水、飲む？
菜子 お願い。

菜子、下手パネルに置いてあったコップを持ち、下手パネルについた蛇口を捻る。
するとそこから、真っ赤な液体が流れ出す。

葉香7 えっ
菜子 あっごめん、お母さんの動脈、そこに繋がってるから…（と、意識が遠のく）
葉香7 なにそれ！（慌てて蛇口を閉める）
菜子 ああ、ありがとう。（意識を取り戻す）

真っ赤な液体の入ったコップと、意識を取り戻した菜子を、啞然と見る葉香7。

葉香7 ねえ大丈夫？
菜子 なにが。
葉香7 （パセリに）もう、父さん、母さんのことちゃんとしてよ、
こんなんじや心配で帰れないよ、
菜子 （笑って）いいのよ、母さんは大丈夫。
葉香7 （パセリに）また毎日仕事ばかりで、母さんに家のこと任せてるんですよ。
菜子 葉ちゃん、あのね、父さんは母さんのために、（しかし吐き気がしてくる）
葉香7 こんなリフォームだってね、あれでしょ？ 父さんの会社がまた、
菜子 いいんだって、（しかし更に吐き気がこみ上げる）
葉香7 （菜子に）よくないよ！（パセリに）ねえちょっと、聞いてる？
菜子 父さんはいつも私のこと考えてくれてるし、あんたのことだって、（更に吐き気）
葉香7 （菜子の様子に気づき）え、ちょっと母さん、大丈夫、
菜子 あのね。父さんはあんたのことをね、いっつも心配して、（更に吐き気）
葉香7 母さん、
菜子 あ、ごめん、（いよいよ吐きそうになる）
葉香7 あ、ちょっと待って！（慌てて部屋の隅に置いてあったバケツを持って来ながら）
菜子 ちよっとだけ我慢、（そしてバケツを菜子の前に差し出す）はい、いいよ、
菜子 （そのバケツにゲロを吐き出そうとする）

と同時に、下手の壁から突き出た太いパイプから、勢いよくゲロが噴き出す。
それを見る、葉香7。もう一度吐く菜子。やはりパイプからゲロが吹き出す。

葉香7 え…。
菜子 ああごめんね、お母さんの胃袋、あっちにあるから。（と言った途端に倒れる）
実乃 母さん！
葉香7 え？ あ、ちよっと。母さん！ 母さん！

菜子に駆け寄り、葉香7と実乃。楽しい音楽インと同時に暗転。
音楽の途中でラジオが流れる。

キャスター 次のニュースです。NHK、日本放送協会は先ほど、

その業務内容や基本理念の見直しを、発表しました。
これによりNHKは、安心と豊かさを未来に繋ぐ公共機関として今後更に…

ラジオノイズが大きくなって、音楽オフ。

FILM (NHK)

ジャリジャリと砂利道を歩く音。映像は海中を進む映像。

アナウンサー (声のみ)

ニュースです。只今よりNHK、「日本放送協会」は、「日本放送協会」として、生まれ変わりました。
これにより全社員と全スタッフが、放浪を始めております。

ジャリジャリと砂利道を歩く音。映像は海中を進む映像。

アナウンサー (声のみ)

もちろん只今、私も放浪しており、
カメラマンもどこかをあてどなく、
放浪しております。ご了承下さい。

ジャリジャリと砂利道を歩く音。映像は海中を進む映像。

アナウンサー (声のみ)

えー、カメラマンが今どこを放浪しているのか分かりませんが、
最初のニュースをお伝えしま

ジャリジャリと砂利道を歩く音、突然走り始める。

アナウンサー (声のみ)

あ、音声さんも放浪を。あ、ちょっと待って……、あ……
ジャリジャリと砂利道を走る音。遠のいていくアナウンサーの声。

しばらくすると映像乱れカラーバーになったのち、ニュース番組音楽イン。
幾重ものCGの輪がズームインしつつ回転し、そこに文字が飛んでくる系の、
ニュースオープニング風の映像。文字は大々的な「NHK」。

アナウンサー

(フレイムインして座り) えー、失礼致しました。
ただいま入ったニュースです。(原稿を手取る) えー…

戸建てや分譲マンションの建築及び建替えで
長年安定した業績を保っている「青菜ホーム」ですが、
証券取引監視委員会の坂部委員長は先ほど同社に対し、
赤字決算を回避する目的で売り上げを不正計上した、
粉飾決算の可能性があると、調査の対象となる事を発表したのち、
味噌仕立てのスープにかぼちゃのたっぷり入った本場甲州のほうとう鍋に、
舌鼓を打ったとの事です。

(ほうとう鍋の映像)

繰り返します。証券取引監視委員会の坂部委員長は先ほど、
味噌仕立てのスープにかぼちゃのたっぷり入った…

緊急チャイムが鳴る。

「NHK日本ほうとう協会」の文字と共に、「緊急」の文字が点滅。

アナウンサー あっ、緊急ほうとうです。緊急ほうとうです。

ほうとう鍋の映像。

アナウンサー 落ち着いて下さい。決して慌てないで下さい。緊急ほうとうです。

ほうとう鍋の映像。

SCENE 『青葉ホーム 1』

映像のまま明転し、一見掃除婦風の中年女性2人が上手奥からやって来る。その服装はとても汚く、ボロの布切れを持ち、汚いタオルを被っている。

女性1 (映像を見て) あら、美味しそう。

女性2 (部屋を見て) ああ、またこんなに散らかってるよ。

女性1 (映像を消して) ねえ、ここはいつまでこうなんだろうね。

女性1 あ？

女性2 建て替え。(顎で部屋を指し) いつからなの？ いつまでなの？

二人、上手側をなんとなく片付け始める。片付けながら。

女性1 ああ、ズーっとだよ。ズーっとやってる。

女性2 なんかほら、工事の工程表みたいなの？ どっかにないの？

女性1 ああ、確かあったけど終了予定日は…、空欄だったね。

女性2 まー。

女性1 だって酷いもんだよ、老朽化が激しくて。ちょっとやさそっとじゃ終わらないよ。

女性2 その看板だっけいつの間にかどっか行っちゃったわ。

女性1 はー。

女性1 (下手を見て) あらまー、こっちも汚い。(下手に行く)

スーツ姿の赤塚、白山、上手前からやって来る。

赤塚はファイルを持っている。

赤塚 (女性らに) あ、すみません。ここはもういいですから。

女性1 あ？

白山 ああ、他をやってくんない？ あっちのフロアとか。

女性1 なんて。いやよ。(と、熱心に下手を片付け始める)

赤塚 有難うございます。でもここはもう、

女性2 ねえ。この工事ってあれなの？ まだ全然途中なの？

白山 は？

女性2 かなり大掛かりみたいだけど。ね？新社屋にするんでしょ？

白山 さぞかし立派な本ビルになるんだろうねー、どんな風になるのかな。

赤塚 やっぱり広々としたエントランスに、やったら大きな窓とか？

白山 それは、あんたらには関係のない事だから。

赤塚 とっても綺麗な建物になって、でもそんななったら私らなんか、

女性2 あ、そんなことはありませんから。今後とも、

赤塚 かなり古くてボロボロだったんだろ？ それが建替えだろ？ まーそりや大ごとよ。

女性2 ねえ、どのくらいかかる？ まだまだだろ？ ねえ頼むよ、私ら仕事失いたくないんだよ。

赤塚 ええそれはもう、大丈夫ですから。ね？ だからとりあえずあっちを、
女性1 (片付けた下手の端に、唐突に寝そべる)
白山 (女性1に) あっ、何してるんだ、
女性1 何って。私ら清掃業者から委託されて来てるんで。
女性2 ええ。(上手の端に寝転ぶ) 田辺清掃からの委託で、派遣されて来てるんで。
白山 だからあっちを掃除、
女性1 (遮って毅然と) される側です。
白山 あ？
女性1 私ら、される側なんです。
赤塚 (気づき) あ。
女性1 だから気にしないで下さい。
赤塚 失礼しました。そうでしたか。おい、白山。

赤塚、白山に向かって歩くが、その途中に寝そべる女性2を、
思い切り踏みつけて行く。

女性2 (痛がる)
白山 !
赤塚 (白山にファイルを渡しつつ) …例の決算の内部調査を進める件なんだが、その前に話が
白山 えっ？ (女性らを見る) でもあの、
女性2 (痛がっている)
白山 (思わず女性2に駆け寄り) 大丈夫ですか、
赤塚 ああ、このゴミなら清掃業者が掃除するから気にするな。(女性1を蹴り飛ばす)
白山 !
女性2 (笑顔で赤塚に) あ、「生ゴミ」ね。
赤塚 (笑顔で女性2に) 分かっています。
白山 (女性1に) え、ゴミで派遣(されて来てるんですか?)

遮って、上手前からスーツ姿の緑山常務、やって来る。

緑山 わ、臭えな。なんだこのゴミは、(女性1を思い切り蹴り飛ばし) おい、窓開けてくれ。
白山 あ…はい…(窓を開けに行く)
女性2 (小声で白山に) 悪いわね。
緑山 さて、始めるか。

上手前からスーツ姿で禿げ頭の男、やって来て、
青ざめた表情で緑山に寄り添ってもらって歩く。

赤塚 (禿げ頭の男を見るや否や駆け寄り) 紺野専務、内部調査の件の前に聞きたいんですが、
緑山 (それを見ずに) 赤塚、専務も騙されていたんだよ。皆、知らなかった。(箱に座る)
赤塚 (緑山の隣に座り、俯く)
赤塚 (緑山に) 経理も不正を否定してるんです！
緑山 だからこそ内部調査を自ら自ら。
赤塚 そんな、意味あるんですかね？ どうせ疑われますよね？
緑山 白山、調査の行程について。
赤塚 緑山常務、これってかなり前からなんじゃないですか？ だって俺が経理にいた頃から、
白山 あれ、二重帳簿の…
赤塚 赤塚さん、
赤塚 それって、知らずにやらされてたって事なんじゃないですか？

薄々勘付いてたのも居ますよ、居ますけど、黙ってたんです、ずっと、

白山 (緑山に書類を渡して) 調査の計画表です。

(受け取って) 何も知らなかったという、事実だけでいい。

みんな知ろうと思えば知れたし、勿論おかしいとは思ってたんですよ、でも、

(遮って禿1の両肩を掴み) だって専務！ そんな、長期に渡る粉飾決算なんて、

赤塚さん！

マズいですよ！ その額だって、

赤塚！ それは私の膝小僧だ。専務じゃない。

え？

離してくれ。くすぐったいだろう。

(手を離して) ひざ…？

(書類に目を通しながら) ああ。

(赤塚にうなづく)

緑山 (白山に) うん。この通りでいいだろう。早速各部署に、

赤塚 (遮って) いやあの！ (禿1に掴みかかる) 紺野専務！ 本当の事を言ってくださいよ！

誰の指示なんですか！ いつからなんですか！

赤塚さん！ それは常務の膝ですから！

は？ 膝ならどっち膝だ？ あ？ (緑山の両膝小僧を思い切り叩きながら)

どっちもあるじゃないか！

やめる赤塚！ それは紺野専務だ！

？

(自分の膝に向かって) すみません、専務。大丈夫ですか。

え…？

白山、日程だけ再検討するから各部署の代表者に、

わかりました。

どっちがですか。

は？

(緑山の両膝をよく見て) どっちが、専務なんですか。

(緑山に) 再検討は内容を周知してからで、

ああ、そうしよう。

わかりました、直ちに連絡を。(邪魔な女性2を蹴り飛ばし、上手奥へ)

上手前からスーツ姿で禿げ頭の別の男、やって来る。

赤塚 (その男を見て) あっ片膝。(緑山に) もう片膝ですよ？ 緑山常務の。

何を言ってるんだ。それは君の膝だ。

え…

じゃ、日程の詳細についてはまた改めて。(歩き出す)

(緑山に付いて歩き出す)

ちょっと待って。私の、ですか？

緑山と禿1、去っていく。

赤塚 (少しの間のと、禿2に向かって) ……膝？

禿2 (赤塚に笑顔を向ける)

え。じゃあ… (恐る恐る自分の両膝を見て) 茶沢…専務…？ え。どっちが…

赤塚 (恐る恐る右膝に向かって) 専務…、あの、この粉飾についてなんです…

禿2 (首を横に振る)

赤塚 (禿2を見つめる)

禿2 (無表情)
赤塚 (恐る恐る左膝に向かつて) 専務…、この粉飾って…
禿2 (首を縦に降る)
赤塚 (禿2を見ている)
禿2 (無表情)
赤塚 (自分の膝に) 専務、ねえ、専務…。粉飾…(言いながら、歩き出す)
禿2 (赤塚に付いて、歩き出す)

二人、そのまま上手前に去っていく。

SCENE 『青葉ホーム 2』

去って行く二人を気にしながら、スーツ姿の黒崎と灰田、下手奥からやって来る。

黒崎 内部調査の件は進んでいるみたいだな。
灰田 ああ。色々急がないと。
黒崎 あ、データの書き換えなら、
灰田 ん？
黒崎 どうした。
灰田 ……臭いな、ここ。
女性1 ごめんなさいね。
灰田 (驚き) 何やってんですか。
女性2 (笑顔で) 生ゴミよ。
黒崎 出てってください。(女性1を立たせる)
女性1 あっ、ちょっと、
灰田 ここに居られると困るんです。(女性2を立たせる)
女性2 じきに清掃の方が来ますから、
黒崎 いいから出てけ、(女性1を無理やり下手奥に連れて行く)
女性1 やめてお願い、
灰田 向こうへ行け、(女性2を無理やり下手奥に連れて行く)
女性2 せめて捨てて、集積所へ
女性1 ゴミなの、生ゴミなの、掃除されないと私らお給料が
灰田 じゃ。焼却炉へ。(と言って、女性1を下手奥に連れていく)
女性2 え。
黒崎 おい！ これを焼却炉へ！(と、同じく女性2を下手奥に連れていく)
女性1 ちょっとそれはダメ！
女性2 やめて助けて！ 燃やさないで！
女性1 いや！

そこに白い衣類、白い手袋、白い靴、白い頭巾を被った女性3、4、
上手奥から、何かを探しながらやって来る。

女性1 (下手奥から逃げてきて) あっ助けて！ 燃やされる！
女性2 (同じく) ああ助かった！ 待ってたのよ！ 早く私らを清掃して！
女性3 あ？
女性4 あだすら、海女だ。
女性1 えっ…
女性3 うに採ってたら、迷っちゃったよ。
女性2 ……うに？

灰田 (女性2を捉えて) さああっち行け。(奥に放る) おい、焼却だ!
黒崎 (女性1を捉えて) ほら早く行け。(奥に放る) 焼却炉に放り込め!
女性1 ああ…(放り投げられ、去る)
女性2 どうして…(放り投げられ、去る)

少しの間。

女性4 で。うにはどこだ?
灰田 知らないよ、出てっくれ。
女性3 あわびでもいいよ?
黒崎 ほら、行った行った。
女性4 はまぐりでもいいよ?
灰田 行けよ!
女性3 岩海苔でもいいよ?
黒崎 行けったら!

女性3と4、時々泳いで逃げようとするも、上手奥に追い立てられて去っていく。
灰田、黒崎、誰も居なくなったのを確認する。

灰田 内部調査の始まる前に、経理や財務は勿論、
営業と建築建設管理のデータの差し替えを終わらせないと。
黒崎 もうだいぶ書き換えは終わった。
灰田 いやまだ充分じゃない。隅々までチェックをした上で、

遮って上手前から、紫垣やって来る。それを追って緋山、やって来る。
紫垣と緋山は、中年男性だがOL。

紫垣 もう、内部調査って誰が言い出したの? 間に合わないじゃない。
緋山 だから逆に時間稼ぎだって。その間に。
紫垣 だって。
灰田 早期の調査を提案したのは俺だ。
紫垣 えっ、
黒崎 その間に全ての処理を。芋づる式を防ぐんだ。
灰田 粉飾くらいなら、経理責任者を切れれば済む。
紫垣 そんな、
黒崎 ああ。疑惑が他に広がらない内に、とつとこの件を終わらせるんだ。
紫垣 だって、彼らは何も…。
緋山 落ち着いて、ガッキー。それしかないの。
紫垣 だってヒーヤン。
黒崎 (紫垣の肩を優しく抱く)
緋山 でも隠蔽、しぎれるものかな。
灰田 (緋山の頭を優しく撫でて) 大丈夫だ。心配ない。
紫垣 (黒崎を振り払って) でもやっぱり私、罪のない人をなんて。

上手前から青菜ホームのマスクット「あおなん」、やって来る。

あおなん やりゆしゆかないんのな♪(ポーズ)とつととやるんなん♪(ポーズ)
黒崎 あ。各部署へは、
青菜 ああ、にしえのじょーほーで、かくらんしゃしゅたなん♪いまのうちなん♪

黒崎 さ。でーたのかいざん♪(ポーズ)でーたのかいざん♪(ポーズ)ありがとう。(と、上手前に出て行こうとするが)

青菜 けいりぶちように、ちゅみを、なしゅりつけるんなん♪(ポーズ)

紫垣 待って、ほんとにいいの？そんな、(黒崎を止める)

青菜 けいりぶちようの、じしゃつでもいいなん♪(ポーズ)

紫垣 (黒崎を止めたまま) そんな…。

灰田 (紫垣を黒崎から無理やり離して) なあ、君は今、急な事で不安定なんだ。だから、(灰田を振り払って) ずっと不安定よ！前年度に人事異動でOLになってからずっと、それからもう、不安で不安で…(黒崎に身を寄せる)

黒崎 ガッキー…(紫垣を抱き寄せる)

紫垣 以前は営業部長としてこの社の業績を。なのに、私だって総務部長からの急な異動で驚いたけど。でも、灰田部長、緋山部長。

灰田 やめて、もう部長じゃ、落ち着いて下さい！ 浅黄元専務なんかから5年前から人事異動でマスコットなんです。

紫垣 (ポーズ)

あおなん でもかわいい？

灰田 え

紫垣 ね、私、かわいい？(黒崎に向かってかわいい顔をする)

黒崎 …ああ。かわいいよ。とってもかわいい。

紫垣 (安心する) そ？

灰田 全てはこの青菜ホームの存続のためだ。

紫垣 (可愛く言う) でもだったらあんな不正なんてしなきゃ良かったのに、そうしなきゃ生き残れなかった。

灰田 (可愛く言う) 粉飾だけじゃないわ。他にも、そうしなきゃ生き残れないんだ。

紫垣 (可愛く言う) でもさ、お前も分かっているだろ。

灰田 (可愛く言う) でもさ、それを今更なんなんだ。

黒崎 (可愛く言う) でもさ、今はこんなことをしている場合じゃない！(黒崎に) さあ早く行け、データの改竄だ。

紫垣 (黒崎を雄々しく止める) やめろ！

灰田 そんなことで無理やり存続させたところで、この社はもう…！

黒崎 (唐突に黄色い悲鳴をあげる)

灰田 (唐突に黄色い悲鳴をあげる)

紫垣 !

黒崎 (地団駄を踏んで) もういや！なんなの？

灰田 (地団駄を踏んで) なんで分かんないの！ ハゲ！ 頻尿！ 加齢臭！

黒崎 (泣き出して) 私たちも人事異動で男性社員になってからずっと不安なんだから！

灰田 (黒崎を抱きしめて) 大丈夫。カッコいい。カッコいいから！

紫垣 (座る) 悪かった…。

緋山。パセリに歩み寄る。

緋山 社長、すみません。私、うちの社のやり方、悪いと思ってませんから。

灰田 ええ、ひとを不幸にするようなことは何も

黒崎 ええ、してない。絶対に。

紫垣 そんなこと、どうしてわかる。俺は長年、現場を見てきたんだ。

営業の現場は勿論、建設の現場も。

紫垣、パセリに歩み寄り、パセリを手に取り、パセリに言う。

紫垣 (パセリに) だから怖いんです。我々の所業で、いったい、何が起きているのか。何も起きてない。

灰田 そうよ。何も起きてない。

紫垣 (パセリに) 今なら間に合います。私、全部話します。

灰田 ちょっと、

紫垣 そして全部、私の責任ということに。

黒崎 なにを、

紫垣 (パセリに) 私が責任を取ればいいんです。私が一人が犠牲になればこれまで通りに、(紫垣を思い切り殴る) 馬鹿を言うな!

全員 !

青菜 …お前にも家族がいるだろ。それに、お前一人の処分で済む話じゃない。分かるだろ。

いいか? お前はただのOLだ。

今やなんの責任も持たない、ただの可愛い、OLなんだよ。

緋山 あおなん…

少し間。

灰田 (黒崎に) じゃ、データの改ざんを急ごう。全てを経理責任者らのハゲの仕業に。

紫垣 バカッ! あたし、もう知らないっ! (泣いて走り去る)

灰田 あ、おい! 待てハゲ!

黒崎 捕まえて! ハゲ!

青菜 はいなん♪

紫垣を追って、灰田、黒崎、あおなん、去る。

緋山だけが残されて、少しの間のおと、ピアノ曲が小さく流れ出す。

緋山 …安心して下さい。あの子もきつと、分かっているんです

(パセリに歩み寄り) 少ししたら、落ち着きますから。

(パセリを見つめて) …え? 私ですか? 私はいつも、社長の味方です。

(パセリに触れて) 社長が辛いとき、いつも傍にいます。

(パセリに更に触れて) ううん、いいんです。私は、一緒に居られるだけで。

(パセリを一房千切って) だって社長には、愛する奥さんと娘さんが…。

え? (笑って) いじわるじゃないです。

(そのパセリを食べる。食べながら) …本当にそう、思っているんです。

(またパセリを一房千切って) ええ。どんな不正も、どんな悪事も、

(そのパセリを食べる。食べながら) …全ては社のため、ご家族のため。

(パセリをぶちぶちと沢山千切って) 私、そんな社長を支えることが出来るのが…、

(そのパセリを目一杯頬張る。目一杯頬張ったまま) ええ。それだけで、幸せなんです…。

ラジオが鳴る。

キャスター ニュースです。

粉飾疑惑の影響で、青菜ホームの株価は暴落中。

下げ止まりは同社の今後の対応によると見られます。

次のニュースです。

日本ほうとう協会は先ほど、ほうとう衛星の打ち上げに、成功しました。

地球の周りを湯気を立てて回る、ほうとうの映像イン。

キャスター 尚、この衛星はほうとうなので、

通信や電波の送信等は、当然ながら出来ないとのことですよ。

緋山、立ち上がり、テレビのチャンネルを変える。
変えたら、ラジオの隣にパセリを起き、部屋を去っていく。

FILM (青菜ホームCM)

高級マンションのお洒落な部屋。

声 この都市に、静寂という贅沢を。

高級マンションのお洒落なエントランス。

声 保証人不要、住人不要。そこにただ、佇む楽園。

高級マンションのお洒落な外観。

声 全ての居住スペースが無人です。青菜ホーム。

あおなんの顔。

SCENE 『青菜邸 一階』

上手奥から葉香〇が、菜子を連れてやって来て、テレビを消す。

葉香〇 もー母さん、大丈夫？

菜子 あーちよつと疲れちゃっただけ。

葉香〇 ほんとに？

菜子 うん。もう全然平気だから。

葉香〇 あーもう、ここも酷い状態。(部屋を見渡す)

そして葉香〇、舞台上の箱を並べ始める。

菜子 ねえ、みいちゃんは？(実乃を探し始める)

葉香〇 知らないよ。

菜子 あの子の気配がしないのよ。

葉香〇 知らないって。つつうか。どうせただの、気配なんでしょ？(箱を並べながら)

菜子 うん。でもねえ。

葉香〇、箱を横に並べ終わり、菜子を捕まえる。

葉香〇 さあ。ちよつと横になって。

菜子 あら。あんたまた分かれたの。

葉香〇 そうだよ。いいからほら！ とりあえず横になって、

菜子
葉香 8

いやよ、
だって。

菜子

母さんは休んでる暇なんか無いの。

葉香 8

(パセリに) ねえ父さん、母さんに言ってやって、

菜子

ここはね、父さんと私の寝室になるの。

葉香 8

あ、そ。(毛布を取りに行く)

菜子

あんたたちの部屋の壁も、ほら、全部取っ払って広々。

葉香 8

はいはい。

菜子

素敵でしょ？

葉香 8

そうだね。

菜子

好きにするわよ。(パセリを見て) だって二人きりだもん。

葉香 8

わかった。(毛布を広げる)

菜子

壁はレンガ造りにしようと思うの。それかもみの木の木目で。

葉香 8

わかったから、一回横になるう。ね？(菜子を箱の上に寝かす)

菜子

(横になりつつ) 二人でゆっくり過ごすのよ。そこに大きな本棚を置いてね。

葉香 8

ベッドはもちろん、シモンスのキングサイズ。
わかったから！(毛布を菜子に投げるように掛ける)

微かに、音楽が聞こえてくる。

菜子

そこでゆっくり本を読むの。父さんはきつとまたあれね、大好きな歴史小説。(笑う)

上手奥から、派手な衣装のアシスタント女がやって来て、ステップ踏む。

葉香 8

(毛布を掛けながら) もういいから、とりあえず眠ってよ。

菜子

(笑いながら) 母さんは何を読もうかなー！

上手奥から、マジシャン男がやって来て、ステップを踏む。

葉香 8

(マジシャンらに気づく) ちょっと待って。

菜子

(笑いながら) 読みたい本なんか別に全然ないんだけど。

葉香 8

これ誰…？

菜子

え？

葉香 8

なんか変なのが居る。

菜子

ああ。気配でしょ。

葉香 8

なんの？

菜子

さあね。(毛布を被って眠り始める)

葉香 8

え？ ねえこれ、なんの気配？ え？ なんの気配なの？

音楽大きくなっていき、マジシャン、ひとつマジックを披露する。

葉香 8

なんなの！

マジシャンとアシスタント、ステップを踏みながら菜子に近づいていく。

葉香 8

え。なに？

マジシャンとアシスタント、菜子の毛布をとって、トラトラさせる。

葉香8 あ。ちょっとやめて。ねえ。ねえ！

マジシャンとアシスタント、毛布を菜子の全身に掛ける。音楽盛り上がりが出ていく。

葉香8 やめてってば！ なにすんの！

マジシャン ワン、ツー、スリー！

マジシャンが布を取り払うと、菜子が居ない。

葉香8 えっ！ 母さん？！ 母さん？！

マジシャンとアシスタント、派手に礼。

毛布を翻しながら、ステップを踏んで、上手前に去って行く。

葉香8 ちょっと待って…！ えっ？ 母さん？！（箱周辺を探す）

ちよっと！ ねえ待って、母さんは？！ あ、それ持ってかないで。（追っ）

うちの毛布、ねえちよっと！（追って上手前へ去る）

SCENE 『青菜ホーム 営業』

入れ替わりで、花井が上手奥から息を切らしてやって来る。

花井 すみません！ どなたかいませんか！

社員1と2（どちらも女）、パンフレットを抱えて、下手奥からやって来る。

社員1 いらっしやいませ。（クスクス笑って、手に持っていたお菓子を社員2に投げる）

社員2 （そのお菓子を下手奥の幕内に投げる）

花井 あ、あの、俺、このリフォームの現場で、解体作業の助っ人で、

社員2 失礼しました！ いまコーヒー、お持ちしますね。（下手幕内に）コーヒーひとつ！

電話が鳴る。パンフレットを用意し始めた社員1、慌てる。

社員2 （小さく）あ、私が。（箱に座る）

社員1 （小さく）ありがと。（箱に座る）

社員2 （電話をとって）はい、住まいのことなら青菜ホーム。青菜ホーム杉並店です。

花井 いやあの、俺、客じゃないんです。さっき、その現場で、

社員1 建て替え、建て増し、リフォームのご相談になりますか？

花井 違います！ 今、ここが解体している現場。そこで人がですね、なんか寄ってたかって、

焼かれたり茹でられたり揚げられたり、

社員1 勿論、建て売り、新築のご案内もさせて頂いておりますが、

花井 違うんですってば！ その現場、酷い事になってるんです、解体業者の方々が…

それって、把握してます？ 上の人は、本社の方には報告は、

社員2 （電話に）ええ、そちらの工事でしたら計画書通りに、

花井 …あ。（もしや）把握、してるんですか、してて、そのまま…

社員2 （電話に）はい、お問い合わせ有難うございました！

社員1 えー（パンフを見せながら）ご新築ですと、只今金利をかなりお安く出来まして、

社員2 （電話を切って立ち上がり）お砂糖とミルクはいかがいたしますか？

花井 は？ もういいです。（社員1に）家ならありますから。（店を出て行くこととする）

社員1 あっ！ ご実家ですよね！

花井 (思わず立ち止まり) どうでもいいでしょう！ いいです。報告しないなら俺が警察に、ご実家でしたら、只今、無料でデザインリノベーション。

夢の二世帯住宅で、憧れのリゾートスタイルを実現できます！

は？

無料です。

社員1 只今だけの特別キャンペーンです。

社員2 我が社のリノベーションを実際にご体験頂くことが目的ですので。

社員1 言わばそこにお住まい頂くこと自体が宣伝となりますから。

花井 ……

社員1 またこの度は工事中の仮住まいとして、

世界遺産の国立公園と美しいビーチが魅力のベネズエラの大都市、カラカスに、

邸宅のご用意がございます。

社員2 他にも、南アフリカ共和国のダーバン、イエメンのアデンなど、

花井 え、そこつて、

社員1 ご安心ください。この近隣でもすでに多数の御家庭に御契約頂いております、

どの御家族にも大変御好評頂いております！

社員2、立ち上がってリモコンを持ちテレビをつける。

優しい音楽と共に映像イン。

映像。「リゾートスタイルリノベーションを御利用のお客様」

オンボロとも言えるリゾート物件を背景に。

南米の武装集団。その下にテロップ「堀之内3丁目 田中さん御一家」

アフリカの武装集団。その下にテロップ「高井戸2丁目 吉田さん御一家」

中東の武装集団。その下にテロップ「久我山1丁目 佐々木さん御一家」

社員1 ほら！皆さんこんなに、すっかり日焼けして、御帰国されるんですよ。

社員2 ええ！皆さんとっても、幸せそうでしょう？

花井 あ…

社員1 只今、全国各地で続々と、リノベーション済みの御宅が増えています。

社員2 こちらを出ましたら周囲をご覧下さい。この周辺もほとんど、

花井 (社員らの前まで行ってから) パンフ、見せてください。

社員2 どうぞ！

花井 契約は

社員1 今すぐできます！

社員1 ではこちらへ。すぐ済みますので。(上手前に向かって歩き出す)

社員2 お砂糖とミルクは。

花井 あ、いらぬです。

社員2 はい！(コーヒーを取りに行く)

御契約が済みましたら直ちに御家族の元へも迎えを出しますので、そのまま皆さんでベネズエラに直行したのち、人身売買の、

(社員1を見る)

社員1 いえ。リゾートビーチへと向かいますので。

社員2 コーヒーです。

優しい音楽のまま、社員1と2、花井、上手前に去っていく。

FILM (青菜ホーム会見)

音楽はそのまま、記者会見の様子。

テロップ「青菜ホーム粉飾疑惑」「内部調査について説明」

会見場のマイクの前にやってくる緑山と赤塚。

椅子に座ると、ズボンを片方捲って、片膝をマイクの前に向ける。

その膝の上にそれぞれテロップ「紺野専務」「茶沢専務」。焚かれるフラッシュ。

声

赤字決済を隠蔽したとみられる青菜ホームですが、

内部調査によりその粉飾は、経理業務の総括監査していた橙木専務が単独の判断で、データの不正操作をおこなった事が判明しました。その責任を追って橙木専務は辞任。

会見場のマイクの前にやってくる白山。

椅子に座ると、ズボンを片方捲って、片膝をマイクの前に向ける。

声

橙木専務は経理業務に関わってから継続的に自社事業の好調を偽造し続け：

焚かれるフラッシュ。激しいシャッター音。

周囲に押されてか、揺れる画像。アップになっていく白山の膝。

SCENE 『青菜ホーム 営業2』

上手奥から、社員3と4(どちらも男)、やって来る。

その後ろから、かなり高齢の、車椅子に乗った老紳士1。

その車椅子を押して、老淑女。

その後ろから、呼吸チューブを鼻に挿して、ボンベを携えた老紳士2。

社員4、テレビを消す。映像と音楽オフ。

社員3

はい。こちらが、ご入居者様専用のジムとプールになりますね。

社員4

こちら側がジムで、向こう側がプールになる予定です。

社員3

その窓からの景色がね、絶景なんですよ。

社員4

その公園越しに、夜は向こうの夜景がね。

老紳士2

見えるんだね。

社員3

ええ、見えます。

老紳士2

ふん。

社員4

特別な気分を味わえますよ。それが毎日いつでも。ですからね。

老紳士2

なるほど。

老淑女

(静かに頷く)

社員3

ご入居がますます楽しみになりますね。

社員4

ええ、こちらのマンションに決めて本当に良かったと思いますよ。

社員3

ええ、完成が本当に、楽しみです。

老紳士2

ふうん。

老淑女

(静かに頷く)

社員3

で、どうします？ 下のバーラウンジや、上のドッグランも、ご覧になりますか。

社員4

(老淑女に) 確かドッグランをとても楽しみにされていましたよね。

社員3

ドッグランは屋上階になりまして、緑豊かな空中庭園になる予定です。

老紳士2

(老紳士2に) でも、バーラウンジの方もちょっと、気になりますよね。

社員4

ふうん。

では、どちらもご覧になっていきますか。

社員3 あ、バーラウンジは地下になりますので、
老紳士2 そうかね。

社員4 (歩き出し) どこもまだまだ工事中ですが実際にスペースを見るとワクワクしますね。

社員3 (歩き出し) あと、ご入居スペースの方は、もうご覧になってまよね。

老紳士1 (社員4のスーツの裾を引っ張る)

なんでしょうか？

社員4 (掠れた声で) 三百回…

老紳士1 (聞こえず) え？

社員3 (大声で) 三百回！

(立ち止まってファイルを開き) ああ。そうですね。ご入居スペースの方はもう三百回、ご見学されてます。(ファイルを見て) えー、年4回ペースで、七十五年ほど。

社員4 そうなんですか！ いやあ、本当に楽しみですよ。

床も壁も窓の一つ一つも、その全てが最高級のヨーロッパスタイルで、
広いリビングには大きな暖炉。キッチンも人気のアイランドキッチンになりまして、
もちろん、全ての照明は間接照明。

息子さんのお部屋は、ご希望通りのブルックリンスタイルで。

老紳士1 (掠れた声で) 三百回聞いた…

社員3 え？

老紳士1 (大声で) 三百回聞いた！

そうだ。確か奥様は、キッズルームを楽しみにしていらして、

老紳士1 (掠れた声で) キッズは居ない…

社員4 (聞こえず) え？

老紳士1 (大声で) キッズはもう、居ない！

(振り返って、老紳士2と老淑女を見る)

老紳士1 (老紳士1が見るので、老紳士2と老淑女を見る)

社員ら

社員らが老紳士2と老淑女を見る、少しの間。

社員4 (辺りを見回し) そういえば奥様は…

老淑女 あ、あ、あ、(と、ハンドバックから咽喉マイクを取り出し喉に当て声の調整をする)

(そして咽喉マイクボイスで、社員4に言う) あああ、ああああ、ああああ、ああああ。

社員4 (聞きとれず) え？

老淑女 あ、あ、あ、(再び声の調整をして、再び咽喉マイクボイスで言う)

母は、先月、亡くなり、ました。

社員らが老紳士1を見る、少しの間。

社員3 そうだったんですか…。

社員4 それは大変失礼を致しました…。

社員3 私たち青菜ホームと致しましては、

五十階建ての屋内型納骨堂をこの近くに併設しており…、

社員4 奥様ご希望のヨーロッパアンスタイルです…。

社員3 床も壁も窓の一つ一つも最高級のヨーロッパアンスタイルで、もちろん照明は、関節照明。

社員4 奥様はアイランドキッチンがご希望でした。こちら、アイランド納骨も可能です。

老紳士1 ふうん…

社員3 こちら一式八百〇千五百万となっております。こちらも只今ローンでのお支払いが、
老紳士1 お願いします！

素敵な音楽イン。

社員4 有難うございます。では本日そちらの建設現場もご覧になりますか？ 確か工事が今、
社員3 (ファイルを捲って) はい、施工して二十七年になっておりますので、ああ、
なんかレンガが一個と、五十センチの柱が一本？ 立ってる、かな？
見ます？

社員4 もちろんだ！ (車椅子の裏から妻の遺影を出す)
老紳士1 (社員3に掴みかかり) バラウンジ、バラウンジ、
老紳士2 (咽喉マイクボイスで) ドッグラン、ドッグラン、
社員4 わかってますよー、じゃあまずは屋上と地下、参りましょうか。
社員3 屋上スペースではなんと、バーベキューも可能ですから。
老紳士2 ほお！

老淑女 (咽喉マイクボイスで) バーベ、キュー！ バーベ、キュー！
社員3 あ、足元気を付けて。
社員4 エレベーターの設置もまだまだで、すみません。

老紳士1 いやいや！
社員3 どこもまだまだこんな感じで。
社員4 外付けの階段とスロープしかありませんが。(車椅子を押す)
社員3 犬は何を、飼う予定なのかな？
老淑女 (咽喉マイクボイスで) ラブ、ラ、ドール、レト、リバー！
社員3 早く飼えるといいね。さあ。
社員4 さあ行きましょう。
老紳士1 有難う！有難う！

素敵な音楽のまま、社員3と老紳士2と老淑女は上手奥に去って行くが、
そのあとに続く老紳士1は、車椅子の上で事切れる。

社員4 ああ、(車椅子を再び押し始め、上手奥に去って行く)
老淑女 納骨堂のご契約、お一つ追加いたしますか？
(声のみ。咽喉マイクボイスで) あー…！

素敵な音楽カットアウトして、ラジオが鳴る。

キャスター ニュースです。ただいま建て替え工事中の青菜ホーム本社の屋上から、
この社に勤める社員と見られる女性が、飛び降りました。繰り返します。
ただいま青菜ホームの屋上から、この社に勤めるOL、紫垣康治さんが、
飛び降りました。
紫垣さんは来週のスイーツbuffetをととても楽しみにしていたということで、
突然の自殺の原因を調べるため、政府調査団による社内調査が、決定しました。

SCENE 『青菜ホーム 営業②』

社員5と6 (電気系作業服姿の、どちらも男)、
下手奥からやって来る。

社員5 あー、やっぱり。
社員6 なるほどねー。
社員5 やっぱりこちらが一番ひどいですよ。
社員6 ああ、こりゃひどい。

家主の夫と妻、その後についてやって来る。

妻 ちよつと出てって下さい。

夫 何なんだ君たちは。さつきから勝手に。

社員5 見逃しがかなりありますよ。このままですと水漏れや、それによる湿気やカビ、更には漏電などの危険もありますから。

妻 やだ、脅かさないで。

社員6 ああ、こっちも同じだな。全体的にきてる。

夫 確かに古い家だけだね。

妻 でもちゃんとしたところをお願いしてるのよ。

夫 ああ。そのリフォーム会社はそんなこと。

社員5 こういうのは表からじゃなかなか分かりませんかからね。

夫 あ、決してそこが手を抜いたとかではなく。

社員6 家取つても年を取りますしね。古くなつてくれば見えないところから、どうしてもガタが来ますから。

妻 (見渡して) ガタが来てるの…？

社員5 あ。いきなりお邪魔してこんなことを、すみません。

社員6 でもこうした点検つて、ベテランじゃないと見逃しも多くつて。

社員5 大事なんですけだね。実際はなかなか…。

夫 あなた方は…。

社員6 青菜ホームの「おうち点検隊」(ポーズ)つて、ほら、CMとか広告、

社員5 見た事ありません？

夫 いやあ…

妻 (思い出し) ああ！あおなんちゃんのこと？

社員6 そう！あれです。今月はこの地区を回らせて頂いてるんです。

社員5 長年経ちますと家つてのは色々な問題が出てくるもんなんですよ。

社員6 でも長年住んでると、なかなかそういう所、気づきませんよね。

社員5 しかもこうして目に見えない所から、やられていきますし。

妻 そうなのねえ…。

社員6 だからあれですよ。この辺も建て替えやらリフォームやら、増えてますでしょ？ 工事が。

夫 ああ。まあな。

社員5 せざるを得ないんです。あれみんな、やりたくてやってるばかりじゃないんですよ。

社員6 それでこうした業者に頼らざるを得なくなると。

社員6 大切な家ですからね。長く住むにはこういうところも、

社員5 しっかり見ていかないといけないんですよけだねえ。

社員6 そうした工事をね、我々の方でも今、沢山やらせて頂いてますんで。

社員5 ええ。このままだと、家がどんどん腐っていくか。

社員5 最悪、発火しますからね。

妻 発火？！

社員5 ほら、去年だかもこの辺で家が燃えたじゃないですか。

夫 え、あれもこういうのが原因なのか。

社員6 そう思いますね。何度も何度も、ご忠告差し上げたんですけど。

妻 ええ、あのお宅も、こうして、見たの？

社員5 ええ、去年ね、見させて頂いたんですけどね、

社員6 結局工事を、断られてしまいましたね、

社員5 無理やりにも、直したかったなあつて、後悔ですよ…

社員6 あれで御一家皆さん、亡くなられてしまつてねえ…

妻 そうだつたんですか…

社員5 工事さえ、させてもらえていたらと思うと…
社員6 そうすれば、皆さん今頃も、幸せに…
社員5 新しく建て替えやリフォームした、あおなんホームで…
夫 工事、してください。
妻 ええ、今すぐにでも。
社員5 ピカピカにきれいなあおなんホームで、一家揃って…
社員6 なのに我々の話を、聞いてもらえなかったせいで…
夫 この際、全面建て替えでお願いします！

夫妻、社員らに頭を下げる。

社員5 いえ。一部の工事だけでも良かったんです。
夫 え、
社員6 ああ。たった一部だけでも、工事させてもらえたら。
夫 いや、一部でも全部でも、うちは工事してもらいますから。
社員6 やっぱり俺の話が説得力なかったせいだ…
妻 あの、
社員5 だって。たった一部の工事だけでもウチでさせてもらえたら…、
火を放たなくて済んだんです。
！
社員6 皆さんが寝静まった夜中に家の床下に潜り込んで火を放つなんて事は…

夫妻、啞然とした様子。

社員5 今でもあの時の悲鳴が聞こえるんですよ、お父さんと、お母さんの…、あちちち…
社員6 ああ…
社員5 (夫にしがみつき) だから…
夫 (社員5の頬を思い切り平手打ちする)
！
夫 あんたらここで工事しない奴らなんて、焼け死んで当然だ！
社員6 ！
夫 どのみち発火したんだ。当然の報いだ。

少し間。

社員5 ……え、あの、違っんです、
社員6 ……あのとき俺がもつと説得出来たら、
妻 (社員6を無理矢理振り向かせる) 説得力、あるわよ。すつごく、あるわよ！
社員6 離して下さい、
社員5 あれは全部、嘘なんです…、工事なんて全然、必要ないんです…！
妻 は？
社員6 (妻を振り払って逃げ出す) もういやだ、俺はもうやめます、こんな仕事、
夫 (社員6を捕まえ拳で殴る) うるせえ！ 今すぐ全面建て替えだ！ 全部壊せ！
社員5 (床に踞る) もういやだ…、もういやなんだ…
妻 (社員5を無理矢理起こして) ね、頑張っつて！ ほら、工事して！
社員5 (社員5に向かってやたらとポーズを取りながら) あおなんホームよ、さあ早く！
社員5 (悲鳴)
夫 (ポケットからライターを出して) さあ、火を放てば早い。お得意たる？
社員6 (悲鳴) ごめん、タモツくん、リョウコちゃん…！

妻 (社員6を捕まえて) ほら早く床下へ、ほらライター持って！
お父さん灯油と新聞紙！
夫妻 ああ！(社員5を捕まえて) ついでにお隣も、お向かいも燃やしちまえばいい！
妻 2つお隣の家が特に古いわ！
夫 じゃ、まずそこ行こう！
妻 ちよど今、ご在宅かも。さ、ほら早く！ 今のうち！

悲鳴をあげ、抵抗しながらも、下手奥の方に連れて行かれる社員ら。
そこに、上手奥から集金人がやって来るが、スコットランド人の風貌。

集金人 あの。
夫 スコットランド人、
妻 やだ何、
集金人 あ、すいません、ドア開いてたんで。
妻 なんなの、
集金人 あ、日本ほうとう協会の者ですが。
夫 (集金人に) スコットランド人じゃないのか、
妻 この家燃やすから早く出てって、行って、
夫 (妻に) スコットランド人じゃないのか？
集金人 でもほうとう、お食べですよね。
妻 食べません。
集金人 でも小麦粉、お持ちですよね。
夫 (妻に) おい、スコットランド人だろ？
集金人 ほら台所に。(と、小麦粉の袋を見せる)
妻 さあどんどん燃やしましょう。この辺一带燃やしましょう。
集金人 結構使われてますけどやっぱり毎日ほうとうを。ねえ。やっぱり毎日、

ピッ、という音がして、ここで全員、ストップモーション。

SCENE 『青葉ホーム 3』

テレビのリモコンを持って、黒崎、上手前からやって来る。

黒崎 このように、我が社はいくつものサービスを展開しています。
ベネズエラ、また南アフリカやイエメンと提携して実現した、
リゾートスタイルリノベーション。
こだわりのライフスタイルをじっくりと追求する、ハイソサエティマンションの建設。
そして、おうち点検隊による、おうち点検。
ご覧いただいたようにどのサービスにおいても、お客様にはとても満足して頂いています。

政府調査団の、男二人と女一人、上手前からやって来る。

男1 そのようですね。
女 スコットランド人？
男2 (メモを取りながら) ええ、事業とサービス内容には、問題ありませんね。
男1 ああ、問題ない。(メモを取りながら)
女 ねえ、スコットランド人なの？
黒崎 我が社は顧客満足度ナンバーワンを常に目指していますので。見てください、あの笑顔。
男1 (夫妻の笑顔を見て) ああ、素晴らしい。

女 スコットランド人だわね。
男2 では次に、社内の雇用体制や労働環境についてですが。
黒崎 ああ、それにつきましても我が社は、
女 あっ、ちょっと待って。さっきのリゾート…
男1 リゾートスタイルリノベーション？
女 そうそう。あれ、今も無料なんですか。
黒崎 ええ勿論。今後、エルサルバドルやホンジュラスとも提携を。
男2 へえ。
男1 パンフレットは。
黒崎 ご希望でしたら持って来させます。おい！（と、上手奥の幕内に声をかけに行く）
女 （その黒崎のリモコンを奪う）ああいいわ、もう一回説明を聞きましょう。

女、リモコンを操作。ピッ音。
高速で逆回しされていく、ストップモーションの人たち。

黒崎 あ、パンフレットの方にも詳しい内容が書かれていますので。
男1 ああ、帰りに貰っていきます。あ、何冊か余分に貰えますか？
黒崎 ええ勿論。あれは当社一番人気のサービスマスでして、予約も沢山、
男1 つつうと大分待たされる感じですかね。
男2 いや実は、ウチの家も大分古くなってきているもので、出来れば年内、いや来年中には、
ちょっと待って下さい。あんなの持ってましたっけ？

見ると、夫婦がそれぞれ、伊勢海老を持っている。

男1 伊勢海老？
女 （リモコンのボタンを押す）

ピッ音。逆回し、スローモーションになる。

女 ほんとだ。伊勢海老。
男2 さっき持ってたか？
男1 あ、ウニだ。
男2 あ、こっちはアワビ。

見ると、社員5と6は、それぞれ、ウニとアワビを持っている。

男2 どういうことですか？
黒崎 え？
男2 なんで海産物を。
黒崎 知りません。
女 ああ！
男1 なんだ。
女 さっきも持っていましたよ。
男2 え？
女 そういえば。ほら！（逆回しを見る）そうそう。ね？ 持っていました。
男2 そうだっけ？（と、逆回しを見る）
女 ほらこの時。この人がアワビをこう。で、あの人が伊勢海老をこう。ね？
男1 ああ！ そうだそうだ、持ってたよ、この時。
男2 え、そうでしたっけ…？ でも…

女 持ってたって。だって。じゃなかったら。

スローモーションの中、海女さんが物凄い速さで駆け抜けて去っていく。

男2 えっ！

男1 どうした。

男2 今、何か。ちょっとごめんなさい。(女からリモコンを奪い、操作)

ピッ音。一旦、再生される。

社員6 青菜ホームの「おうち点検隊」(ポーズ)って、ほら、CMとか広告、

社員5 見た事ありません？

夫 いやあ…

男1 何をしている。いいから巻き戻しなさい。

妻 (思い出し) ああ！あおなんちゃんのこと？

社員6 そう！あれです。

男2 ちょっと待ってください。(リモコンを操作)

ピッ音。再びスローで、逆回転。更にゆっくりなスローモーション。

女 ちょっともう。そんなにゆっくり。

男1 もういいから最初の方まで巻き戻してくれ。

男2 いいから、見てください。あ、ほら！

海女さん、悠々と泳ぎながらやって来て。伊勢海老をタラバガニにすり替える。

男1 え。…誰だ。…何してるんだ。

黒崎 海女さんですね…。

男2 何してるんです…？

黒崎 さあ…。

もう一人の海女がやって来て、ウニとアワビを、それぞれ、ワカメにすり替える。

男1 ああそつだ！ この時はワカメを持ってた！ そつだそつだ。

男2 何してるんです？

黒崎 分かりません。

女 なんでウニとワカメを、

黒崎 さあ…。

男2 なんで伊勢海老とタラバガニを、

黒崎 さあ…。

ここで社員5と6が部屋に入って来るところまで巻き戻り、それぞれ去って行くが、女がリモコンを操作し、ピッ音で、シーンの最初に登場した社員6だけが、中途半端な状態で一時停止。

女 なんだったの。今の。

黒崎 さあ。分かりません。

男1 (社員6を見て) うん。この時は、ワカメを持っていた。(男2に) そつだよな？

男2 あ…。

黒崎 さ。リモコンを返してください、ご希望の所まで戻します。
男1 いや。(腕時計を見る) あー。そろそろ時間ですね。映像は預かせてもらったのを後ほど。
黒崎 時間？

男2と女、なんとなく姿勢を正す雰囲気。
白山、上手前からパンフを持ってやって来る。

白山 パンフレットです。
男1 あと、PC内の全てのデータと。あと、紙の帳簿も。
女 (リモコンを黒崎に返す) ええ。現存しているもの全て預かりますんで。
黒崎 え…？
男2 (白山に) ああ、まもなく押収に大勢やって参りますのでね。
男1 (白山に) それを見るから結構ですよ。
白山 ちょっと待ってください。押収？
黒崎 どうしてそんな、
男2 どうしてって。元々、そのつもりですから。
黒崎 だって、

緑山、逃げ出す自分の片膝を追いかけながら、上手奥から走り込んで来る。

緑山 (逃げる膝に) 専務！紺野専務！ どうしました、どこへ行くんです！
ああ白山、専務を止めてくれ、さっきからずっと、
常務、この方たちが。
白山 え…？
女 はい皆さん！ ここを動かさないでくださいね。
緑山 社員さんの自殺と、長期の粉飾決算の疑いがあるとの内部告発とで、
男1 大掛かりな調査が入らないわけじゃないんですけどね。
男2 (膝に) 専務、だから(膝、ぶいと横を向く) どうして教えてくれなかったんです…！
緑山 (膝を引っ叩きながら) 紺野専務…！
白山 (辺りを見回し) あれ、常務の膝は、
黒崎 分かりました、私、言います…。
緑山 え？
黒崎 ごめんなさい、もうダメです…。みんな逃げちゃったんです！ あれから…。
男2 (女っぽくなり) 私、もうムリです、すみません…！
緑山 (更に女っぽくなり) 粉飾なんて大したことじゃありません、我が社は、我が社の建築は…、
黒崎 黒崎、くん…？
緑山 黒崎、くん…？
男1 すみません常務！ 仕方なかったんです。そうしなければ我が社は…、
男1 いったい何をしたんだ！
黒崎 はい…。

男1、黒崎に歩み寄る。

男2、ボイスレコーダーを準備。女、メモの用意。

黒崎、緑山と白山を見てから、男1の前に、歩み出る。

黒崎 申し訳ありません…。我が社の建築では、面積の単位を、平米ではなく、……ぼろぼろに。

少し間。

男1 ……は？

黒崎 だって都内にはもう土地が余っていないんです…！ だから…

白山 ぼろぼろ…？

黒崎 はい。ぼろぼろです。

男1 ぼろぼろ…？

黒崎 はい。思い出です。

男2 思い出。

黒崎 はい。都内の新たな建築のため、我が社の建築現場では、面積の単位を、「平方メートル」から、「平方メモリ」に……。

楽しんでメモリアルな音楽が、小さく流れ出す。

黒崎 例えばこの社屋の面積は、4600平方メモリ。つまり、4600平方思い出になります。

女 平方、思い出？

黒崎 はい。この、4600平方思い出の上に、我が社は…。

女 平方、思い出？

黒崎 はい。我が社の物件の全てが過去の思い出の上に…。

緑山 おい黒崎、どういことだ、私は何も知らんぞ。

白山 いや常務、確か以前現場を訪れた時に…、

緑山と白山、何かを思い出す。

黒崎 (白山に)…あつ、その思い出が、1ぼろぼろです。

白山 え？

緑山 (一人思い出し続けており) ああ…、あの頃はこの社もまだ活気があって…、

黒崎 あ…、この思い出は…、

緑山 (思い出し続けており) そうそう社員旅行では、あれがあれして…、

黒崎 97ぼろぼろになります。

緑山 (思い出し続けており) はははは、そうだ！ オレンジジュースがなかったんだ、

それでサイダーを出したら、シユフシユフきらい、パパきらい、って…、

黒崎 充分に一軒家が建てられる、ぼろぼろです。

女 え。

黒崎 これだけあれば、すぐに建設に取り掛かることが可能です。

女 思い出すだけで…？

黒崎 はい…！

様子が変わる、男1と2と女と白山。

女 (何かを思い出して) ゆうちゃんが動物園でサンドイッチを！

男2 (何かを思い出して) タマネギだ！ 食わされたんだよ、無理矢理、

男1 (何かを思い出して) 味噌汁！

白山 (何かを思い出して) そうだ入社式！ あん時、俺のメガネがこう、

黒崎 (何かを思い出して) ああ、あの時、社長が！

全員、口々に思い出を口走る騒々しいなか、黒崎、パセリに駆け寄り、パセリを元あった舞台後ろ中央に持って行き、置いて眺める。

緑山 (何かを思い出して) 小林さーりーん！

音楽、大きくなっていき、暗転。

FILM (ハートフルホームCM)

父 あーあ。住みたい場所はどこもすでに、家だらけだなあ。
母 ええ。快適な家に住むなんて、とても無理無理。

ハートフルホームのマスコット「ハートさん」。中年のおばさん。ゆっくり現れる。

ハート なに言ってるんだい。平気平気。

どこにだって、広々おうちが建てられるよー！

ハートさん、飛んでいくと、図解。

三十坪の平面図の、坪面積がどんどん減っていき、ゼロになったのち、そのまま単位がマイナスになっていく。

声 ハートフルホームのおうちは、マイナス30坪から！

マイナスになった面積、更にマイナスを増やして広がっていく。

声 更にマイナスを足して、なんとマイナス100万坪までOK！

ネガフィルムの色味が変わって、広がっていくリビング。

子 わー！ ひるーい！

ハート これで広々。一家団欒。みんな快適ね！

ネガフィルムの色合いになった家、どんどん広がっていき、ネガフィルムの色合いになった家族たち、そのなかで笑う。

父 (笑顔が歪みながら) ああ%&#、ほんとにういす#%&%&

母 (笑顔が歪みながら) ええほん%&#%3N%&、これでG#.%&

子 (笑顔が歪みながら) やっ&D%HF&H、さいFGツッH半

家族、伸び縮みし始め、分裂や分解、点滅を始める。

ハート ほうら。これでみんな幸せ！

一軒家もマンションもアパートも。みんなで住もう、ハートフルホーム！

警報音と共に、注意書きの文字が点滅する。

文字 「※マイナス坪では、時空が歪みます。」

「※住居内、およびその周辺で、「分裂」「分解」、または「消滅」の恐れがあります。」

SCENE 『青葉邸 リビング』3

葉香9、細かくなった肌色の物体と、服の切れ端の入った、

大きなゴミ袋を持って、叫びながらやって来る。その後を、実乃がついてくる。

葉香9 (ゴミ袋に向かって) 母さんっ！ 母さんっ！ 母さんっ！
実乃 どしたの？

葉香9 あっみいちゃん！ 母さんがね、さっき消えたの！ で、探してたら！
なんかこんな！ 粉々に！ (ゴミ袋を見せる)

実乃 母さん？ (ゴミ袋を受け取って、眺める)

葉香9 ああ、どうしよう、どうすればいいの、

実乃 (ゴミ袋から肌色の物体を一つ取り出して、壁の向こうに投げる)

葉香9 あ

実乃 (ゴミ袋から肌色の物体をもう一つ取り出して、壁の向こうに投げる)

葉香9 ちよっと！ あんた何してんの！ (ゴミ袋を奪い返す)

実乃 だって

葉香9 (ゴミ袋を箱の後ろに隠して) あんたもどっか行って！ ああ、母さん…

ポヨンと可愛い音がして、箱の裏から菜子、起き上がる。

菜子 あーびっくりした。

葉香9 えっ、母さん…？！ えっ…

菜子 (自分の体を触り) よっし…

葉香9 (急いで箱の裏に回って、空のゴミ袋を拾い上げる)

菜子 (上を見上げて) ねえ、この家、総面積、約300ぼるぼるもあるのよ…

葉香9 は？

菜子 (上に向かって) だからみいちゃん、帰って来なさいよ、

いつまでもフラフラしててもしょうがないでしょ？

実乃 みいはここに居るよ。

菜子 あら。

実乃 (笑顔か手を振る等)

菜子 全くもー。消えたり現れたりいいわね。(箱に座る)

葉香9 …。つか。母さんどっか、足りなくない？

菜子 えっ？

葉香9 大丈夫なの？

菜子 さあ(考える)

葉香9 (空になったゴミ袋を見る)

菜子 あ。また。またあんた分かれたの？ もーほんとにあんた達は。

そろそろもっとしっかりしないと。

しっかりして欲しいのはこっちだよ、

だって母さん心配なのよ、だから、

こっちが心配してんだよ！ (ゴミ袋を投げ捨てる)

菜子 ……。なんで？

葉香9 ……もう。私だって暇じゃないの。このままじゃいつまで経っても…

菜子 忙しいの？

葉香9 だからいつつもラインで仕事だって言ってるじゃん！

菜子 うん。でも

葉香9 毎回ちゃんと返信してんじゃん！

菜子 うん。でも

実乃 ようちゃん、うるさい。

葉香9 それでいいでしょ？ なのになんなの！ このリフォームだって…

ねえ、当てつけ？！ 当てつけなんですよ！

菜子 (笑って) 何のよ？
葉香9 私だって色々あんの！ 余裕がないの！ 何年帰ってないかなんて、もう分かんないよ！
仕事がもう、忙しくて、だから、
菜子 (笑って) ああ、そんな。違うのよ。言ったでしょ？ もう大分、古くなっちゃったの。
だから、
葉香9 (思わず菜子の胸ぐらを掴み) そんなに古くなってない！
菜子 ちよつと、
葉香9 CDどこやったの！
菜子 桂枝雀の？
菜子 違うよ！
実乃 変なCDでしょ？
葉香9 変じゃない！ (実乃に掴みかかる)
実乃 ちよつとようちゃん！
声 やめなさい…！

可愛らしい目をした、半ズボンの三揃を来た、お洒落な老爺1と、
黄色いドレスを頭から被り、顔だけ出したお洒落な老婆、下手の奥からやって来る。

老爺1 騒々しいと思つたら、いったい何をしているやら。
葉香9 …誰？
実乃 お爺ちゃん！
菜子 違うわよ。
葉香9 ……誰？
菜子 ほらあなた、あれよ…、
葉香9 え？
菜子 こっちも、ほら…！
老爺1 母親に向かつてそんな態度は良くないな。
老婆 あなた、そんな子じゃなかったじゃないか。
老爺1 ああ、全くだ。いつも優しくて母さん思いで。
老婆 ああ、母の曰なんかにゃ、
老爺1 手作りケーキを焦がしちまって大泣きしたうえ、
老婆 興奮してそこらにゲロ吐き散らかして、
老爺1 結局母さんの手を煩わしたもんだ。
老婆 それでも、
老爺1 母さんはきつと、嬉しかったんだ。

老爺1、肝油ドロップの笑顔を、葉香9に向ける。
老婆、シュガーカットの決め顔を、葉香9に向ける。

葉香9 あっ……！ 肝油ドロップと、シュガーカット……？
菜子 ええ、そうよ…。ずっと、その裏に転がったままで…。
老婆 ああ、もうこんなに、年を取っちゃった。
菜子 ほらあなた、あんなに好きだったじゃない。
老爺1 (肝油ドロップの笑顔を葉香9に向ける)
菜子 あんたあの頃はよく歯に食つついて取れなくなつてね。
葉香9 製造年月日いつなの？！ 賞味期限は？ 大丈夫だったの？！
菜子 シュガーカットはお母さんのね。
老婆 (シュガーカットの決め顔を葉香9に向ける)

上手前から、オーバーオールにボーダーシャツの、かなりの老爺、ビスコを持って何をしてもなくやって来て、下手奥に通り過ぎようとする。

葉香9 あ……、ビスコ……

老爺2 ん……？

葉香9 ビスコなの……？！

老爺2 (あまり聞こえてないが立ち止まり、キョロキョロする)

実乃 お爺ちゃん！

菜子 違うわよ。

葉香9 だってほら！ ビスコ持ってる！

老爺2 あー…&\$%#&%"\$ニシン&#%&%"\$

葉香9 は？

菜子 ああ、あんたのビスコよ、あんたタンスの裏に落としたまんまで…。

葉香9 私のじゃない！ 何年前なの！

老爺2 あー…？

老婆 分からない子だね。そんなに大声出すんじゃないよ。

葉香9 ああ全くだ。落ち着きなさい。

老婆 触らないで！

老爺1 やめときな。どうやらこの子、思い出しちゃくれないみたいだ。

老婆 (泣きそうになる)

老爺1 諦めな。そんなもんさ(シユガーカットの決め顔で、葉香ににじり寄る)

葉香9 (思わず悲鳴をあげて怖がる)

老婆 この薄情娘が。(シユガーカットの決め顔で、葉香ににじり寄る)

葉香9 (思わず悲鳴をあげて怖がる)

菜子 (思い出し) そうだ！ あんたこの顔、怖いって、どっかに仕舞ってって。

老爺1 (泣いて下手奥に走り去る)

菜子 あ…

実乃 お爺ちゃん…！(老爺1を追おうとする)

菜子 みいちゃん、あれお爺ちゃんじゃないから(実乃を止める)

老婆 (葉香9の顔に向き直り、唾を吐きかけてから、下手奥に去って行く)

葉香9 (思わず悲鳴をあげる)

老爺2 #.%\$\$\$&タケノコ#&!%&!

葉香9 は？

老爺1と老婆が去ると、天井から、茶色い物体が一つ、落ちてくる。

菜子 え？

実乃 なに？

葉香9 なにこれ、(近づいてみると) 臭っ…！

全員、上を見上げると、更に一つ、また一つと落ちて来る。

葉香9 臭っ！ なに…？

実乃 お爺ちゃん…？

菜子 (上を見上げて) あー…。そうだ。お爺ちゃんの大腸、そこに繋がってるんだった。

葉香9 (上を見上げて) えっ…、お爺ちゃんの…。

すると次に、壁から突き出た細いパイプから、黄色い液体がちよろちよろ流れ出す。

葉香9 なに…？
菜子 ああ、膀胱はそこね。
実乃 お爺ちゃん…！
葉香9 どこで…。
菜子 え？
葉香9 お爺ちゃん、どこに居るの…。
菜子 さあ。
実乃 お爺ちゃん！（茶色い物体を拾い集めて、下手奥に走り去っていく）
菜子 あ、ちよっとみいちゃん！ ウンコ持ってどこに。
葉香9 ねえ、ようちゃん！ ほらあんた、みいちゃん追っかけて！ 早く！ ほら！
菜子 （菜子を一瞥し、上手奥に去っていく）
老爺2 …あ、ちよっとどこ行くの。ようちゃん、ようちゃん！（葉香9を追って去る）
老爺2 あー…

老爺2がうるうるするなか、ラジオが鳴る。

キャスター ニュースです。先ほどより全国各地のヒザたちが、自由と権利を求めて、一斉に立ち上がりました。

FILM (運動)

禿げ頭にスーツ姿の中年男性たち、厳しい顔ですらりと並ぶ。

キャスター ヒザたちは自由と権利を獲得すべく、各地で激しい運動を開始。

禿げ達、厳しい顔のまま激しい運動を開始。

キャスター 曲げ伸ばし運動に、内回し、外回しを繰り返し、更にコンドロイチンとグルコサミンを要求。

禿げ達、厳しい顔のまま激しい動きを見せる。

キャスター これにより全国的にヒザの痛みは和らいでおります。繰り返します。全国的にヒザの痛みは和らいでいるということです。尚、重大な建築法違反の発覚した青菜ホームは再建の目処が立たず、事実上の倒産に追い込まれました。

建て替え中の青菜ホーム本社の映像。

SCENE 『青菜ホーム 4』

灰田、上手奥からやって来てラジオを消す。

灰田 社長…。申し訳ありません。まさか、こんな事にまでなるなんて…

(棚のパセリを一房、むしって食べる)

私は社長を信じて、一生ついて行くつもりでした…でも(また食べる)

怖かったんです、あんな事になって…だから(また食べる)

ううん、私だけじゃない、みんな…(また食べる)

いえ…。見苦しい、言い訳です…。(ほぼ食べ尽くして)

本当に、申し訳ありませんでした…!!

上手前から、元あおなん、スーツ姿の浅黄がやって来る。

浅黄 灰田くん?

灰田 あっ、あおな…、いえ、浅黄元専務。

浅黄 どうした。何をしている。

灰田 いえ別に。元専務は。

浅黄 ああ。私も特に。ただ…:

遠くを見る浅黄。浅黄を見る灰田。少し間。

その背後、下手奥から、全身を白タイツですっぽり覆った、男だか女だが、こっそりやって来て、通り過ぎようとするが、二人に気づき、悲鳴をあげる。

タイツ (物凄い悲鳴)

灰田 えっ!なに?

タイツ あっ、ごめんなさい、誰も居ないと思ったから、(全身を懸命に隠す仕草)

浅黄 誰だ。

タイツ もう行けると思ったんですけどさっきから入れ替わり立ち替わり人が来たりしてて、

今ちよつと静かになつたからそれで、

灰田 出たって下さい。そりゃ青菜ホームはもう倒産しますけど、ここはまだ、

タイツ 違うんです。私、その更衣室から、

灰田 更衣室で何してたの?!

タイツ 違うんです、そのロッカーに私ずっと、

浅黄 警察を呼びぞ。(ポケットから携帯電話を出す)

タイツ (その手を取って)あ、海苔、知りませんか。

浅黄 は?

タイツ 海苔です。見ませんでしたか。

灰田 ノリ?

タイツ はい、味付けとか焼き海苔とかじゃなくて、

灰田 あなたなんなの。

タイツ おにぎりです。

二人 …。

タイツ ああっ!ほんとに申し訳ありません。こんな格好で…(全身を懸命に隠す仕草)

赤塚、下手奥から紙袋を持ってやって来て、浅黄たちに気づく。

(以降、タイツ↓おにぎり)

赤塚 あ…。何をしてるんですか。

おにぎり (物凄い悲鳴をあげて)ごめんなさい、こんな(全身を隠す仕草)

赤塚 誰ですか。

浅黄 おにぎりだ。

灰田 あなたこそ何をしに来たんですか。

赤塚 俺は忘れ物を取りに。(紙袋を見せて、上手前に去ろうとする)

実乃、ウンコ持ったまま、上手奥からやって来る。

灰田 あなたですよね。

赤塚 え?

灰田 内部告発。

あ…。

なんだ。そうなのか。

もついいんですけどね。どの道……。

赤塚 ………。 (浅黄の前に戻り) すみません。俺、黙ってられなくて。

(箱に片足を乗せ、自分の膝に) 茶沢専務と相談して…、あれ？

(自分の膝を叩く) 専務？ 専務？

灰田 (笑って) とつくに逃げましたよ。私も……

浅黄 …。(おにぎりに) 海苔が要るのか。

おにぎり あ、はい。

浅黄 買ってきてやるう。(上手前に向かって歩き出す)

馬鹿みたいに家を建てましたね。(箱に座る)

え…？ ああ…。そうですね…。 (箱に座る) 家を建てなきゃ、儲けが出ないし…。

(振り返りおにぎりに) ああ。味付けとかじゃなく、普通のがいいんだよね。

灰田 あの頃は楽しかったな…。

おにぎり 待って下さい、すみません、別の海苔じゃダメなんです、

浅黄 なぜだ。

赤塚 楽しかった？

灰田 ええ。あの頃は社長ももっと青々と瑞々しくて。

だって。海苔を巻き直したおにぎりなんて。どう思います？

先代の娘と結婚して社長になっただけの無能だよ。

おにぎり ううん。そもそも海苔の剥がれたおにぎりなんて、

灰田 赤塚さん？

そう…！ 今はただの塩握り…！ 私なんてただの塩握り…！

浅黄 おにぎり…！ (思わずおにぎりを抱きしめる)

うるさい！ (そして赤塚に向き直り) 今、何て言いました？

赤塚 あんな社長、役立たずだって言ってたんだ。そもそも何も言わないじゃないか。

それをお前らが勝手に、

灰田 赤塚さん…！

あの人事異動だって、自分達が好きでやったんだろ？ (浅黄に) そうだろ？ なあ？

あの粉飾だってお前らが。そのせいでこの会社は。お前らと、そいつのせいで、

灰田 (思わず赤塚の紙袋を引たくって) 赤塚さん…！

(パセリに向かって) いや、お前が全部悪いんだ！ 何も言わずに。何もせず。

お前なんか、ただのお飾りだ！ ただの添え物だ！

灰田 やめて！ 違う！

灰田、紙袋で赤塚を殴る。

紙袋から大きな風呂敷が落ちる。少しの間。

おにぎり

すみません、取り乱しました。もういいです。私はただの塩握り。

トビッコと昆布と、ほの少しのチーズが入っただけの…。それでもう、充分です。

灰田 浅黄元専務、行きましょう。

赤塚 勝手にすればいい。

灰田は上手奥に、赤塚は上手前に、おにぎりは下手奥に、

それぞれ去って行くこととする。

浅黄

待て…！

立ち止まる、赤塚と灰田とおにぎり。

浅黄 トビッコと、昆布と…？

おにぎり え？

浅黄 トビッコと、昆布と…？

おにぎり ほんの少しのチーズです、

灰田 どうしました？

浅黄 お前、あいつの…

灰田 浅黄元専務？

浅黄 佳代子の…

灰田 え？

浅黄 (灰田に) 別れた妻だ。(おにぎりに) まさかお前、佳代子の握った…。

おにぎり え？

浅黄 お前の居たロッカーが一番右か？ 右なのか？

おにぎり ええ、それで(す)

浅黄 (おにぎりを強く抱きしめる) ああっ…！ すまん…！ あれからずっとお前…！

おにぎり (おにぎりの両肩を握り) 海苔は？ 海苔はいつからだ！ おい灰田それを！

灰田 え？

浅黄 早くしろ！

灰田 (落ちた風呂敷を拾う)

浅黄 (おにぎりを赤塚から隠し) おい！見るんじゃない、

灰田 (風呂敷を浅黄に渡す)

浅黄 とりあえずこれを、

浅黄、おにぎりを風呂敷で包むと、風呂敷には筆文字で、

「有明海」と書いてある。

浅黄 あ、あ、有明海?! (灰田に) これは?!

灰田 赤塚さんの忘れ物ですけど…

浅黄 (赤塚に) お前、これはどうしたんだ。

赤塚 え

浅黄 どうしたんだ!

赤塚 いや、いつの間にか持ってたんで、ロッカーに入れたままに…

浅黄 ……。お前、海苔か…。

赤塚 は？

浅黄 そういえば…、入社式でも見なかった…、懇親会でも新人研修でも…。

灰田 一つの間にか、居た…。

赤塚 (ハッとして) そういえば…。

浅黄 ああ、もういいです、俺、行きますから。

赤塚 待て赤塚。…お前は海苔だ。

浅黄 …は？

赤塚 この社員でもない。赤塚でもない。海苔なんだよ。

灰田 なにを。

赤塚 あっ…、ああ…!! (赤塚に抱きつく)

灰田 ちよっ…

赤塚 赤塚さん…

赤塚 (その感触と、その臭いで、徐々に海苔の過去を思い出していく) あ……………。

メモリアルな音楽イン。

浅黄 (おにぎりを見て) 佳代子……
灰田 (浅黄を見て) 浅黄元専務……
浅黄 (赤塚とおにぎりに) 行こう……
おにぎり でも私……
浅黄 大丈夫だ……

海苔、おにぎりをしっかりと抱き上げたまま、
下手奥に向かって、ゆっくりと歩き出す。
その後ろに続く、浅黄と灰田。

おにぎり きつともう腐ってます……
浅黄 いいんだ……
おにぎり 腐ってますから……
浅黄 いいんだよ……
灰田 浅黄元専務……

実乃、四人に向かってウンコを投げる。

灰田 あっ、臭っ！
おにぎり ほら！ もう、腐ってますから！
浅黄 いいんだ……！
おにぎり ……………。(海苔にしっかりと抱きつく)

おにぎりとお海苔、浅黄と灰田が、下手奥に去ると同時に、ラジオが鳴る。
実乃はラジオを見る。

キャスター ニュースです。
ハートフルホームの急成長により急激に戸数を増やしている、
「マイナス坪物件」ですが、
それによる時空の歪み、住人の分解、分離、消滅が深刻化しています。
現在地上にプラス坪の家を持ち、地上で生活している都民の割合はおよそ2割。
厳しくなる一方の保証人の保証条件や経済的理由等で、
プラス坪の物件に入居出来ない都民は、今後更に増え続ける見込みです。
また、それにより地上では空き家が急激に増加しており、
空き店舗や空きテナントもまったく埋まらず……

SCENE 『リナント』

高級な服を着て、高級なバックを持った妻たち三人、上手奥からやって来る。

妻1 ほら、ここよ。
妻2 あら、これも建て替え中なのね。
妻1 ええ、元は昭和初期に建てられた建物なんですって。
妻3 まあ。
妻1 でもやっぱり老朽化が激しくて建て直し。
妻2 どころそうね。古い物件はやっぱり。
妻3 でも、元のデザインは大事にするんですよ。
妻1 もちろん。そつらしいわよ。

妻3 わあ。楽しみね。
妻1 (下手奥に向かって) すみません。予約した桃井ですけど。
妻2 三人でディナーなんて大学時代以来ね。
妻3 旦那様たち、今頃寂しがつてるかしら。
妻2 いいのよ。たまには寂しがらせてやらなくちゃ。
妻1 (下手奥に向かって) すみません。あら、誰も居ないのかしら。

汚いモップを持った、マクドナルド風のバイト制服姿のバイト老婆と、汚いロナルド風の衣装を着た、ロナルド老爺、下手奥からやって来る。二人とも、歩くのがやっとの様子。

実乃 お爺ちゃん？

ロナルド (パントマイム)

妻1 あ、予約した桃井ですけど。

バイト 予約…？

妻1 ええ今朝、お電話で。

バイト は…？

妻1 ここいいかしら。(箱に座る)

妻3 じゃ、私はこっちで。(箱に座る)

妻2 じゃ、お先に失礼。注文、よろしいかしら。(バイト老婆の前に行く)

バイト あー…じゃあこちらで…

妻2 てりやきバーガーのセットを。

バイト サイドメニューはポテトになさいますか…。

妻2 えー。どうしましょ。(悩み始める)

バイト ! (心臓発作を起こす)

妻1 連日ぶった返してるのに今日は空いてるのね。

妻3 そうなの？

妻1 だって有名な老舗よ。

ロナルド (妻らに向かって風船のパントマイムを披露する)

妻1 (ロナルドに) まあすごい。ありがとう。

妻3 (店を見回し) そうか、今、関東にこの一件だけだって言うしね。

妻1 え？

妻3 飲食店。

妻1 そうなの？

バイト (一命を取り止める)

妻2 んー。じゃ、サラダで!

バイト (息絶え絶えに) お飲物は…

妻2 んー…どうしよー…。(悩み始める)

バイト ! (心臓発作を起こす)

妻3 んもう、あんまり遅くなると旦那様に叱られちゃうわよ。

妻1 まあいいじゃない、今日はゆっくりしましょうよ。

バイト (バイトに) ねえ。こちらは何時までやってるのかしら。

バイト (苦しいまま) 当店は、24時間営業に、なっております、

ロナルド (懸命に風のパントマイムを披露していたが、思い切り吹き込む)

妻3 あ!

妻1 え?

妻3 (ハンドバックからスマホを取り出して見る) ごめん、旦那様からだ。

妻1 え、なに?

妻3 ベビちゃんが愚図って寝てくれないんだって!

ロナルド (更に咳き込む)

妻1 えー?もしかして帰っちゃうの?

妻3 ごめーん、ほっとけないー!

妻1 もー、しょうがないなー!

妻3 (立ち上がってバイトの前に駆け寄って物凄い早口で) すみません!

テイクアウトでダブルチーズバーガーのセットとビックマックのセットを
サラダとポテトとコーラとホットコーヒーで。

バイト (心臓発作を起こしながら) 少々、お待ち、下さいませ、せ、(下手奥に向かっていく)

妻2 待って! じゃあアイスティーで! (バイトに) あら? どこ行くの?

妻1 こちらお二人だけで切り盛りしてらっしゃるから。

バイト ! (いよいよ発作が酷くなる)

妻2 (妻3に) テイクアウトって。

妻3 ごめんなさい! ベビちゃんが。

バイト (発作が酷いまま) ダブチ! ビック、ワン! セット! SP……!

バイト老婆、力尽きて倒れる。ロナルド、実乃、バイト老婆に駆け寄る。

ロナルド (声にならない驚きと動き)

妻2 わあ、すごい! (拍手)

妻3 さっきからお上手なのよ。

妻1 ね。記念にみんな写真撮らない?

実乃 ! (思わず妻らを見る)

妻1 (嘆くロナルドを捕まえて) ねえねえ、一緒に写真、お願いしまーす。

妻3 (死んだバイトにスマホを押し付けて) すいませーん、写真撮って下さーい。

妻ら、それぞれキャッキヤと、ポーズを決める。

実乃、妻らに向かって、ウンコを投げつける。

妻1 あ、臭っ!

妻2 え、臭っ!

妻3 や、臭っ!

妻1 なにやだ臭いー

妻2 なにそれ、臭いー

妻3 うそ、これ、うそでしょ?

妻3、ウンコを蹴り飛ばし、思わず下手奥に逃げていく。実乃、追っていく。

バイト クッサ!

蹴り飛ばされたウンコがぶつかり、死んだはずのバイト老婆、
物凄い勢いで飛び上がる。

ロナルド老婆もパントマイムで臭がり、二人とも、下手奥に逃げていく。

FILM (NHK 2)

NHKニュースのオープニング風の映像と音楽、再び。

アナウンサー ニュースです。地球の軌道を回っていたほうとうが先ほど遂に、煮詰まりました。
繰り返します。

地球の軌道を回っていたほうとうですが先ほど遂に全ての汁が、煮詰まりました。これにより、今後鍋は空焚きされ、最悪発火し、地球上に火の粉を撒き散らすか、或いは大量の有害な焦げを撒き散らす恐れがあります。ご注意ください。

しかし、我々は不死鳥ですので、安全です。

「NHK 日本鳳凰協会」の文字。煌びやかで神々しい、鳳凰の映像。

SCENE 『建設省』

スーツの女性二人、上手前からやって来る。

女性5 そんなはずないじゃない。

女性6 すみません。でも…

女性5 青菜ホームで家を建てたりリフォームした顧客は都内だけでも7千人近く居るはずなのに、でも何の声も出て来ないんです。ハートフルホームの被害届や訴訟は、増加する一方なのに…

女性5 そのマイナス坪物件は都内で8億3千万2千5百件ほど。比べ物にならない。

女性6 そんなに建ててどうするんですか、住む人いるんですか。

女性5 知らないわよ。とにかく青菜ホームの被害状況を。

建築作業員三人、やって来る。それぞれカラフルなタオルを巻いている。
全員、妙に声が甲高い。

作業員1 よし次はここだ。

作業員2 気をつける。

女性6 ちょっと何ですか。ここは建設省の、

女性6が少し近くと、作業員3、物凄い勢いで警戒する。

作業員3 おい！ 危っねえぞ！

女性6 えっ

作業員3 安全第一！ 気をつつける！

女性5 あなた方は…

作業員1 ああ、ここにはハートフルホームの建て売り87件とマンション12棟、あとアパート8千9百27棟、建てっから。

女性6 は？ ちょっと待ってください。ここは、

女性6が少し近くと、作業員1、悲鳴をあげるように警戒する。

作業員1 危っねえじゃねっか！

作業員2 殺つすぞおら！

作業員3 お前ら…、現場を何だと思ってんだ…。気をつける…。

女性6 すみません…。

作業員1 現場で腕を無くした奴も、いっぱい居んだよ…。

女性6 ごめんなさい…。

作業員2 ああ。足を無くした奴も、頭潰れた奴も…。

女性5 でも…、ここは建設省の…、

作業員1 お姉さん方よ。ウチら、頼まれた仕事、してるだけなんですわ。
女性5 でも…、建設省はこの工事について…、
作業員3 あ？ 建設の事は、プロに任せるもんだよ。お姉さん。

作業員ら、遠巻きながら、女性らににじり寄っていく。

作業員1 さ、危ねえから、出ていくんだ
作業員2 悪いが、力づくでも、出ていってもらうよ。
作業員3 ああ。やれ。
作業員1 へい。

作業員2と3、指関節を鳴らしたり、肩を回したりしながら、女性らに近づいていく。女性ら、思わず小さな悲鳴をあげて身を寄せ合う。

作業員2 ほら、出てけ…（ほんの少しだけ、女性5をつつく）
作業員3 早く、出てけ…（ほんの少しだけ、女性6をなでる）
作業員2 ほら…（とても優しく、女性5をつつく）
作業員3 早く…（とても優しく、女性をなでる）
作業員2 ほら…（とても優しく、女性5をつつく）
女性6 さあ…（とても優しく、女性をなでる）
作業員2 ああ、何をしてるんですか。
女性5 ほら…（とても微かに、女性をつつく）
もうやめて。

女性5、作業員1を軽く叩くと、澄んだ綺麗な音がする。

女性5 えっ
作業員2 何っしてんだてめえ！
女性6 ちよっと、

女性6、作業員2を軽く叩くと、やはり澄んだ綺麗な音がする。

女性5 綺麗な音。
作業員 おい、大丈夫か！

作業員1、駆け寄り、作業員らは身を寄せ合って、心配そつに互いの体に触れたり撫でたりし合う。その度に、繊細で澄んだ綺麗な音が、響き合う。

女性5 あ。ガラス細工？
女性6 え。
女性5 あなた達、ガラス細工なの？
作業員3 だったら何だっつうんだよ！

女性6、作業員1の腕を肩から指先まで撫でてみる。繊細で澄んだ音が、綺麗に響く。

女性6 ガラス細工がどうしてこんな仕事を。
作業員1 さあ。分かったら早く出ていけ。…割れるぞ。

女性ら
!

ここで、残りの作業員ら、上手前、上手奥、下手奥から、集まってくる。全員、同じく声が妙に高い。カラフルなタオルを巻いている。

作業員4　ちやっちやと終わらせるぞ！

作業員5　気をつける！

作業員6　そっちからだ！

作業員7　気をつけていけ！

作業員8　よっし。…取り掛かれ。

威勢良くやって来た作業員ら、号令がかかると一斉に静まり、舞台上の箱を、とても慎重に、とても慎重に、運び始める。

女性6　（思わず）あ…、ちょっと待って。やめてお願い。

女性5　（思わず）危ないから。

女性6　（思わず）割れちゃうから。

音楽イン。

女性5　（音楽に対して）え？なに？

作業員ら、激しく踊り出す。

女性5　あっ！なに？　ちよっと！　危ないから！

女性6　やめて！　割れちゃうから！　割れちゃうから！

構わず踊り続ける作業員ら。女性らは逃げて行く。

作業員ら、ひとしきり踊ると、最後に割れて碎け散る。

作業員7と8のみ、車に乗り運転する振り付けで、去って行く。

FILM (強制解体)

音楽はそのまま、NHKニュースに。女性アナウンサー。

アナウンサー2　ニュースです。

被害や訴訟の生じていない青菜ホームの平方思い出物件ですが、「過去の秘密の発覚」や、

女に浮気のバレル男の映像。

アナウンサー2　「今になっての幻滅」など、

泣く女の映像。

アナウンサー2

その美しい思い出のやがて壊れる可能性を懸念し、政府は今日、それらの早急な解体と取壊しを、決定しました。

テロップ。「平方思い出物件、強制解体」

アナウンサー2

解体は老朽化の進んだ物件から取り掛かるということで、その解体業者は入札により、「お豆腐工業株式会社」に決まりました。

真っ白な作業服の、優しい笑顔の作業員たちが、真っ白で四角い本社ビルの前に、並んだ画像。そして別の女性アナウンサーに。

アナウンサー3

只今入ったニュースです。

(差し出された原稿を読む)

同意をする分だけ税金が課せられる「同意税」の導入に引続き、正気である分だけ税金が課せられる「正気税」の導入が、先ほど発表されました。

これに対して直ちに全国各地で大規模な反対運動が巻き起こり、集結したデモ隊により全国の主要都市は混乱。

「絶対反対!」「同意しない!」と書いたプラカードを掲げ、暴徒化寸前の人々の映像。

アナウンサー3

(差し出された原稿を読む)

これを受けて政府は直ちに課税の撤回を発表しましたが、これに対しても直ちに大規模な反対運動が勃発。

「絶対反対!」「同意しない!」と書いたプラカードを掲げ、暴徒化寸前の人々の映像。

アナウンサー3

(差し出された原稿を読む)

これを受けて政府は直ちに課税を遂行。

(原稿置いて)

これにより、全国民はこれより、正気である分だけ、税金が課せられます。

国会議事堂の画像。

女性の声

尚、衆議院議員、参議院議員、並びに地方議会の議員等の政治家につきましては、端から課税の対象外です。

SCENE 『青葉邸 リビング 4』

映像終わりで明転。

同時に作業員7と8、車を運転する振り付けで下手奥からやって来て、

車を降りたら下手のブルーシートを舞台中央に敷くと、慎重に作業を始める。

そこに菜子、上手奥から慌ててやって来る。

菜子

ちょっと! 人ん家で勝手に何してるの! あなた達、あれでしょ?

ハートなんとかの、ほら、まんぐり返しで、なんか、分泌とか昇天させる、

実乃、上手奥から慌ててやって来る。

実乃

マイナス坪で分裂とか消滅だよ、

菜子

ここは父さんが建てた初めての家よ、勝手に別の家を建てないで、

実乃 ここはもう解体が決まってるって。
菜子 させないわよ、そんなの。
実乃 でも。

菜子 (何も持っていない実乃の手を見て) あら、みいちゃんあんた、
そこらにウンコ撒いて来たの？

実乃 うん。

菜子 葉ちゃんは？ 見なかった？

実乃 葉ちゃん怒ってたよ。

菜子 やだなんですよ。でも靴はその裏に62個あったからその内ふらっと、

実乃 そんなに分かれたの？！

菜子 だからほらもうやめて！ (作業員7を叩く)

綺麗な音が鳴る。

菜子 ここは違うの、解体しないの！ (作業員8を叩く)

綺麗な音が鳴る。

菜子 だから早く出ていって！ (作業員7と8をリズムカルに交互に叩く)

綺麗な音、何かのメロディを奏でる。

作業員7 (逃げながら) やめるよ！

作業員8 (逃げながら) 綺麗な音、鳴らすなよ！

作業員7と8が下手奥に逃げていくと、上手奥から、汚い緑色のものが来る。
汚い緑色のもの、ともしょんぼりとしている。

菜子 誰……？

実乃 (緑色のものをよく見て) ……スーモ？

緑色 (駆け寄って) お部屋探し？お部屋探しなの？

実乃 (微かに頷く)

緑色 お部屋が見つからないの？

実乃 (微かに悲しい顔をする)

菜子 スーモ……！

実乃 (緑色の匂いで思わず) あ、臭っ

菜子 母さん酷い！ アパート建てさせてあげれば良かったのに！

実乃 え？

菜子 (緑色に) 何年お部屋見つからないの？ 十年？ 二十年？

実乃 (なんらかの表情)

緑色 (緑色を抱きしめて菜子に) いいじゃんアパート！ こんな家より！

実乃 (なんらかの表情)

緑色 (緑色を抱きしめたまま) だって不労所得だよ！ ウハウハだよ！

実乃 (緑色を抱きしめたまま) ね、面倒な管理は管理会社に任せて、

菜子 家賃収入で遊んで暮らそうよ！

緑色 (なんらかの表情)

菜子 何言ってるの？

実乃 (緑色を抱きしめたまま) こんなんじゃなくて、ちゃんと家賃払えるのに貸して。
見た目だけ適当にきれいにして、相場より高めの家賃で。
緑色 (なんらかの表情)
菜子 みいちゃん
実乃 (緑色を抱きしめたまま) ちょうどいいじゃん、会社潰れたし。それしかないって！
菜子 みいちゃん！

そこに汚いピンク色のもの、しょんぼりとした顔でやって来る。

実乃 あっ、スモミ！(緑色を突き飛ばして、ピンク色に駆け寄る)

菜子 この家はあるた達に残さないといけないでしょ、

そりゃしばらくは父さんと二人の家になるけど、この先どうせあんた達、

実乃 でも解体されるよ。

緑とピンク(頷く)

菜子 そのために父さん、あんななるまで仕事して、(パセリを指差す)

実乃 でも解体されるよ。

緑とピンク(頷く)

菜子 そのために母さん、こんなに頑張っつて、(自分の作業着姿を見せる)

実乃 でも解体されるよ。

緑とピンク(頷く)

菜子 あんた達がいつまでも、そんなでも大丈夫なように、

実乃 でも、

緑とピンク(頷こうとする)

菜子 だからリフォームするのよ新しく！ だっつて、

実乃 でも、

緑とピンク(頷こうとする)

菜子 じゃないともう、ダメなのよ！

菜子、緑色とピンク色を押し退け、パセリに駆け寄りながら言っつ。

菜子 ね、会社なくなっつてもこのリフォームは続けるでしょ？当然よね、

実乃 ねえ、

菜子 ああもう葉ちゃんはどうしたのかしら、

実乃 ねえ、

菜子 (パセリを手に取っつて) 夜には帰るわよね、夕飯はどうしましょ、

実乃 ねえ！

菜子 (パセリを揺さぶっつて) あなたは何がいい？ 何が食べたい？

実乃 ちよっつ、

菜子 (パセリを逆さに持つつて) ああ、明日からまた作業したいけど作業員はどうしましょかね？

実乃 ちよっつと、

菜子 私一人じゃとても無理だわ、ねえ父さん、どうしましょかね、これから

実乃 ちよっつと！

菜子 (パセリを更に揺さぶっつて) ねえちよっつと聞ける？ あなた？ あなた？

実乃 あ。

菜子 (パセリをやたらと叩きながら) 聞いてますかー？ 聞こえてますかー？

実乃 ちよっつと母さん、どしたの、

菜子 (パセリに向かっつて) あーあーあーあー、

実乃 母さん！

菜子 ああもう！(パセリを鉢から引っつこ抜き) いいかげん、何とか言っつてよ！

実乃 あっ…
菜子 (パセリを無茶苦茶に握り潰したうえ、バラバラにする)
実乃 (悲鳴)
菜子 もー！ どうして何にも言わないの！

菜子、パセリを思い切り床に叩きつけ、踏みつける。鉢は割れ、土が飛び散る。

実乃 (パセリに駆け寄り) 父さん…！

菜子、上手奥に走り去っていく。

実乃 (母を追っ) 母さん…！

菜子と実乃が去ると、緑色とピンク色、上手前に逃げ去っていく。

SCENE 『青葉邸 リング 5』

入れ替わりに、下手奥から緋山が、S & Bのパセリの39瓶を持って、急ぎこっそり来る。

緋山 社長、社長…！ しっかりして下さい、社長！

(瓶を見せて) S & Bです。さ、この中に。

(落ちたパセリを掻き集め始めつつ) うちには他にもバジル、シナモン、ローズマリーが
(パセリを瓶に詰め終わり) だからもう大丈夫。うちに来てください。
どんな料理にも振り掛けます。

猟銃の発砲音。緋山、思わず悲鳴を上げる。

ヘッドライトにヘルメットにツナギ姿に猟銃を持った、探検隊の風貌の婆さんと、
ガイドの黒人、壁の下を破って現れる。

ガイド ワッザー、マ、デングガンダ。

婆さん (緋山に) 誰だ、何をしている。

緋山 え、誰です、何をしてるんです、

婆さん (猟銃で一発、威嚇射撃)

緋山 (悲鳴)

婆さん 邪魔だ。

緋山 は。

婆さん (ガイドに) ウンバ、ド、デングバンダ。

ガイド ガー、ダヤパ。

ガイド、ブルーシートを鉢や土ごと丸めて下手奥に持って行く。

婆さん、背中に猟銃を仕舞うと、背負っていたツルハシを取る。

緋山 え、ちょっと何してるんですか、

ガイド マー…！！

婆さん ポンペポンペ、ダヤ。ボンペポンペ、ダヤ。

ガイド ポンペポンペ、ダヤ。ボンペポンペ、ダヤ。

ガイド、リズムを取りながら手を叩き、婆さん、ツルハシで床を掘り始める。

緋山 ちよっと！何してるんですか！（思わず止めようとする）
ガイド （婆さんに）ワッザー！ マ、デンダ。
婆さん （ガイドに）ワッザー！

婆さんとガイド、踵を返して下手に移動し、
壁にロープを掛け、そこを登ろうとする。

緋山 あ、ちよっと待ってください、ここは青菜社長の、
婆さん ああ、知っている。

何をしてるんですか、

緋山 （緋山に）ゲッボン。ダッヒ、マッヒ。

婆さん （緋山に）ハンコだ。

え？

ガイド （緋山に）ゲッボン。ダッヒ、ダッカ。

婆さん ハンコを探している。

緋山 ハンコ？

婆さん ……宅配が来た。

緋山 え？（思わず辺りを見回して）いつ……

婆さん 35年と2ヶ月9日前の、午後4時17分だ……。

ガイド （トランシーバーを出し通信を始める）ゲンダヤンダ、ゲンダヤンダ、

どこを探しても見つからず、以来、私は家の中をこうして、日夜探し続けて

ガイド （遮ってトランシーバーに）マシー！ ワザ、ボンダマンダ。（そして通信を切る

するとヘリコプターの音が聞こえて来る。

緋山 （思わず）え、上空からも？

婆さん （ガイドに）ウンバ？

ガイド （婆さんに）ダンバ

婆さん （上空に）マー！ モッヒ、ガッヒ！

そこに菜子の声らしき声が聞こえる。

声 「母さん？ うそ、母さん！ どこに居たの、母さん！」

菜子、上手奥から走ってやって来て、婆さんに飛びつく。

緋山 え、奥さんのお母さま？ じゃ、あなた、行方不明だった社長の、

婆さん 私は一度も家を出ていない。（ガイドに）デッサ、ヤッサ？（と、上手前を指差す）

ガイド （婆さんに）ヤッサ。

緋山 （ガイドに）で、あなたは、

婆さん （遮って）マー！

婆さん、菜子を振り払い、上手前に向かって走り出す。

ガイドもそれを追って、二人、去っていく。

緋山 あっ、ちよっと待って、

菜子 「母さん！ガイドさん！待って！ ガイドさん！」

菜子の口は動いているが、菜子の声は別の所から、聞こえてくる。

緋山 え、あ、あの…、お母さまはずっと…

菜子 「分かってます。全部聞こえてました。」

緋山 え…

菜子 「私の耳は、あの辺と、あの辺にありますから。」 (適当に指差す)

緋山 (菜子の指差した方を見る) は？

菜子 「だからさっきのあなたの言葉も。」

緋山 あっ… (思わず瓶を後ろ手に隠す)

菜子 「無駄ですよ。私の目は、この辺と、この辺にあります。」 (適当に指差す)

緋山 (菜子の指差した方を見る) え……

菜子 「で、喉と口は、なんかそっちの方ね。」 (適当に指差す)

緋山 (菜子の指差した方を見る) ……

菜子 「さあ、そのS&Bを返しなさい。」

緋山 でもあなたさっき、社長に酷いことを、

菜子 (にじり寄って) 「さあ早く。」

緋山 (後ずさって) でも、

菜子 (にじり寄って) 「早く。」

緋山 (後ずさって) でも、

菜子 (にじり寄って) 「早くして!!」

緋山 (菜子から逃げて) やっぱり嫌です!

同時に、これまでの菜子の声とは別の声、別の場所から聞こえてくる。

声 「何だと!このヤセギスが!」

緋山 えっ!

菜子 「今のは心の声です。私の心は、なんかあっちの方にありますから。」 (適当に指差す)

緋山 ? (菜子の指差した方を見る)

菜子 「さあ返して。あなたのことはよく聞いてます。信頼出来る部下さんで、」

声 「勘違いしてんじゃないよ、あなたなんか仕事でいいように使われてただけの雌豚じゃない。

緋山 この淫売、売女、肉便器!」

は…

菜子 「仕事もよく出来て、よく支えてくれて、」

声 「ただの都合のいい女よ!」

菜子 「だから、」

緋山 (思わず菜子の手を取って) …そう、私、ただの都合のいい女よ。

声 「え?」

緋山 雌豚よ。淫売よ。売女で肉便器よ。

声 「なに?」

緋山 有難うございます。そう、見えますか? そう、見えるんですよ?

声 「なんなの、このブス。」

緋山 (突如の剣幕で) ブスじゃないわよ! …有難うございます。迷いが、無くなりました。

菜子 「え?」

緋山 (瓶に向かって) 行くわよ。

緋山、全速力で上手奥に去っていく。

声 「あっ!ちよっと待って! このヤセギス淫乱痴女!」

緋山 (声のみ聞こえる) 有難うございまーす!

菜子、一旦追おうとするが、
床に落ちたパセリの茎だかのカスを一度手に取り、投げ捨てる。

菜子 「父さん、まさかあんたあんな女と！」
緋山 (遠くの声) 有難うございまーす！

菜子、奇声を発すると上手奥に走り去る。
同時に婆さんとガイド、リズムを取りながら匍匐前進で、
上手前から上手奥へ移動して行く。

婆さん ポンペボンペ、ダヤ。ボンペボンペ、ダヤ。
ガイド ポンペボンペ、ダヤ。ボンペボンペ、ダヤ。

SCENE 『郵便局』

入れ違いに、実乃、上手前からやって来る。

実乃 葉ちゃん……！ (辺りを見回す)

時報チャイムが鳴り、
郵便局員の男女、下手奥から小走りにやって来る。電話が鳴る。

局員男1 (ボタンを押して) 18番のカードをお持ちのかたん。
局員女 (電話を取り) はい、兜町郵便局です。
実乃 (葉香を探し) 葉ちゃん！
局員男2 (局員男1に) あ、そのお客さんならさっきちょっと出るってよー。
局員男1 (おどけて) うそーん。

葉香10、急いで上手前からやって来る。

葉香10 すいません、戻りました！
局員男1 あれれん？ 実家はどしたん？
葉香10 いいんです、もう。
局員男2 だって久々だったでしょー？いいのー？
葉香10 いいんですって。それより休んですいませんでした。
局員女 いいっていいって。ぜんぜん大丈夫い。(Vサイン)
葉香10 (笑って) ありがとうございます。
実乃 葉ちゃん！
葉香10 え、みいちゃん何、こんなとこまで。
実乃 あのね、母さんがね、父さんが、
葉香10 ああもういいよ。仕事の邪魔。
実乃 ねえ戻って。
葉香10 一人いないと大変なんだって。
局員男1 でもほんと、もっとゆっくりしてくれば良かったのに。
局員男2 そうだよー、せっかくなんだしー。
局員女 羽伸ばしてえ、美味しいもの食べてえ。
局員男1 そ。実家の飯がやっぱ、一番だしねん。
葉香10 (笑って) そういう訳にはいきませんから。

局員男2 お。(おどけて) まっじめだねー。
葉香10 (笑う)

実乃 (葉香の手を取って引っ張る) ねえ戻って！ お願い！ 今すぐ！

客、上手前からやって来る。

葉香10 (実乃を思い切り突き飛ばして) いらっしやいませ！

局員男2 お。また甥っ子ちゃんにお手紙ですかー？

客 ええ。スマホもいけどやっぱりねー。切手10枚お願いします。

局員男1 お。送りますねん。

客 だって毎週お手紙来るんだから。お絵かき付きで。

葉香10 えー？

局員女 すっごーうい。

客 もうお返事がたいへん。

局員達と葉香10と客、とても朗らかに笑う。

実乃 もー！ 葉ちゃん！

葉香10 はい。原子力切手が10枚ですね。あ、84プルトニウム切手で。

客1 ええ。あとこれね。(封筒を渡す)

葉香10 はい。お預かりします。原子力郵便でいいですね。

客1 ええ。もちろん。

葉香10 むーさん、お願いしまーす。(封筒を渡す)

局員男1 はいよっ。

局員女 じゃ、こんさん、制御棒と燃料棒、お願いしますう。

局員男2 はいよー。

局員女 こちら、924ウランになります。

客 はい。(手袋をして、鉄製のジャーからウランを取り出し始める)

葉香10 じゃ、私、冷却水を。

局員女 よろしくう。

低い機械と蒸気音が鳴り始め、

局員男1と2と葉香10、手袋をしてそれぞれ作業をし始める。

実乃 (葉香の元へ行って) 原子力？

葉香10 (結構な力仕事をしながら) え？ああ、そうよ。

実乃 (辺りを見回して) でも郵便…

葉香10 (結構な力仕事をしながら) ああ、原子力で手紙を送るの。

客 こないだ送って来た絵なんてね、私とミイコが草原みたいな所でこう、

葉香10 あっちょっと、被曝被曝！

客 あ、いっけない。(ジャーの蓋を慌てて閉める)

局員女 (手で空気を払いながら) ああもう、致死量致死量！

客 ごめんなさいい。

葉香10 (笑って) 気をつけて下さいよー。

局員男1 (準備が出来て) もんちゃん、核分裂でーす。給水ポンプと再循環ポンプ、よろー。

局員女 はい(客に) じゃ、お手紙、送っておきますんでえ。

客 ありがとう、よろしくね。(去って行くが、途中で倒れる)

局員男2 あーごめーん、どっちが制御棒でどっちが燃料棒だったの？

局員女 えー？また分かんなくなっちゃったのお？

葉香 10 あっ、私どっちかやったのに。
局員男 2 ここんとこ一人でやってたよーん。
局員女 でもダメじゃーん。(おどける)
局員男 2 (笑う)
局員男 1 ああほら。ポンプポンプー。
局員女 あ、はーい。
葉香 10 あ、私、給水の方やります。(バルブを開けに走る)
実乃 (葉香の元へ行って) ねえ葉ちゃん、何してんの。
葉香 10 (結構な力仕事をしながら) ああ、その原子炉圧力容器に、
実乃 原子炉？
葉香 10 そう。ほら郵便配達バイクの後ろに大きな赤い箱が乗ってるでしょ？
実乃 うん。
葉香 10 あれも原子炉。
実乃 あれも。
葉香 10 そ。あれでサドル下のタービン回してエンジン回して、
局員男 1 あ、違う、そっち燃料棒燃料棒。
局員男 2 ありやー！
葉香 10 あ、ちよっと待って。そっち行きます。
局員男 2 あー？(笑いながら) ごつめーん。溶解溶解。
局員女 あれ？ 給水は？
葉香 10 あ、はーい。
局員女 よろー。
葉香 10 ね？ 忙しいの。手が離せないし休めないの、だから帰って。
実乃 でも：
局員男 1 あひやー。メ・ル・ト・ダ・ウ・ンー(おどける)

警報音が鳴り、灯りが赤くなり始める。局員男1と2、倒れる。

葉香 10 ちよつとどいて、邪魔なの。
実乃 分かった。じゃ、他の葉ちゃんところに行く。(行こうとする)
葉香 10 (それを止めて) ちよつと待って、みんな忙しいよ。
原子力美容室に、原子力幼稚園に、原子力フラワーショップに、原子力スバ。
あと原子力バーと、原子力カフェと…
局員女 あっ。ごつめーん。冷却水、おねー。
葉香 10 あ。はーい。

葉香 10、走り出したところで、閃光が光る。
そして物凄い音と共に、全員、吹き飛ぶ。

暗転。爆音は続き、爆音が消えると、ラジオから警報音が鳴る。

キャスター
日本上空で空焚きされていたほうとう鍋が、ただいま、発火しました。
日本上空で空焚きされていたほうとう鍋が、ただいま、発火しました。
日本上空で空焚きされていたほうとう鍋が、ただいま、発火しました。
日本上空で空焚きされていたほうとう鍋が、ただいま、発火しました。

SCENE 『青葉邸 リングゲ 9』

ラジオが鳴ったまま明転すると、

箱はシーン『青菜邸 リビング』と同じように配置され、
全ての壁から、下手奥の壁からも、パセリが大量に生えている。
床の端や箱の端からも、パセリが芽吹き出している。

菜子、下手奥からやって来て、ラジオを見る。
菜子の頭の天辺にも、パセリが生えている。

そこに、上手奥から葉香一、走り込んで来る。

葉香一
やだもう、なにこれ。急にもー(濡れた服をはらうなど)
え、なにこれ、カボチャ？ ニンジン？

菜子、ラジオを消す。

菜子
ああ。上空で発火したほうとう鍋から吹きあがった、
焦げたほうとうの具とほうとうが、地上に降り注いでるみたいね。
葉香一
…は？

葉香一、室内のパセリを見て、驚く。

葉香一
（部屋の様子に対し）え、つつか、何なのこれ。
え？

葉香一
（菜子の頭に気づき）つつか、どうしたの？
ああ。父さんよ。
どうして？ なんてこんなに？
菜子
知らないわよ。

実乃が、マグカップを二つ持って入って来る。

実乃
葉ちゃん、おかえり。
葉香一
あ、みいちゃん。ね、これ、いつから？ いつからなの？
実乃
うーん、さっき？（菜子にマグカップを渡す）
菜子
あんた仕事は？ 忙しいんでしょ？

葉香一
ああうん、今ウチの原子炉も臨界状態で、すぐ戻って何とかしないと
関東のみならず本州全土が立ち入り禁止になるかもしれないんだけど。
（お茶を飲みながら）大変ね。

葉香一
でもこれなんなの！
菜子
なによ、うるさいわね。
実乃
なんかね、ここに落ちた茎から、地面に根っこが生えたみたいで。
葉香一
は？

実乃
うん。この床から地面に根っこが生えて。それが地中で伸びて、
枝分かれして、あちこちに。
菜子
ほら、地中の根っこって書いて、地中根。
葉香一
ほんとは茎らしいんだけど。あ、地下の茎って書いて、地下茎ね。
は？

葉香一
ところであんた忘れ物してっただでしょ。ほら、鞆。（葉香の鞆を持ってきて見せる）
菜子
ああ、ありがとう。
実乃
あと378個、あっちにあるからね。（鞆を元の場所に放り投げる）
え、そんなに分かれたの！

葉香ー ああ、うん。
菜子 でもあれね、きっと肥料が良かったんだわ。
葉香ー え？
菜子 ほら、爺ちゃんのウニコ。
葉香ー は？
菜子 それをみいちゃん、あんたあちこちに蒔いたから。
菜子 え…（と、自分の肩を見る。するとそこにもパセリが芽吹き出している）
葉香ー じゃ、…ウニコ？ …ウニコでここに？
菜子 そうじゃない？（笑う。笑いながら）やだ、きつたない。
実乃 （菜子の頭のパセリをじっと見る）
菜子 さ。あんた早く帰って着替えた方がいいわよ。母さんも着替えるわ。
実乃 みいちゃん、あんたも着替えるでしょ？ 早くお風呂に入って着替えましょ。
うん。

菜子と実乃、上手前に向かう。

葉香ー ちょっと待って、でもこれどうすんの。
菜子 ああ捨てちゃいなさい。
葉香ー え。
菜子 早くむしって、捨てちゃいなさい。
葉香ー でも、
菜子 ああそうだ。母さんリフォームやるから。だから安心して。
葉香ー え？
菜子 もうやめたの。ここにはアパートでも建てて、家賃収入で遊んで暮らすわ。
葉香ー 面倒な管理は管理会社に任せて、見た目だけ適当にきれいにして。
相場より高めの家賃でウハウハ。
葉香ー え、じゃ、母さんたちはどうすんの？
菜子 ああ、私はどこか、マンションに。
葉香ー マンション？
菜子 うん。（部屋を見渡して）もうこんなに広くなくていいしね。
葉香ー でも父さんはどうすんの？
菜子 え？
葉香ー だって。（部屋を見渡して）入りきらないでしょ。
菜子 うん。
葉香ー どうすんの。
菜子 知らないわよ。
葉香ー 知らないって。
菜子 アブラムシとかキアゲハの幼虫とか、あとナメクジとかも付くしね。
葉香ー は？
菜子 あとウドンコ病とか軟腐病（なんぷびょう）にもなりやすいし。
葉香ー なにそれ？
菜子 だからもういいの。
葉香ー え、置いてくの？
菜子 さ、みいちゃん。着替えましょ。もう汗臭くって。

実乃、菜子から離れる。

菜子 どうしたの。
実乃 （壁のパセリに）父さんいいの？ それでいいの？

菜子　　みいちゃん。
実乃　　(箱のパセリに) 良くないよね？　良くないでしょ？
菜子　　いいのよ。
実乃　　(床のパセリに) ねえ父さん、ねえ父さん……！

間。

照明、その床のパセリのみを中心に照らす形で暗くなっていき、
下手奥は、完全に見えなくなる。

菜子　　……ほら。何も言わないでしょ？　だからいいのよ。
実乃　　父さん……。

菜子　　大丈夫。父さんはその辺にまた生えるし。これでいいのよ。
母さん、すっきりしたのよ。それに今すぐ、楽しいの……。

楽しい音楽、小さく流れ出す。

SCENE 『青葉邸 リビング 7』

菜子　　だってこれから母さん、自由なのよ。
あんなたちもどうせ勝手にやるでしょ？だから私も勝手にやるの。
何したっていいのよ？　だって一人なんだから、一人になるんだもの。

音楽、徐々に大きくなっていく。
舞台上、主に下手奥、徐々に明るくなっていく。

菜子　　何をしようかしら。ね？　何をするといいかしら。
そうだ、恋をしたっていいのよ。ね、いいでしょ？　新しい恋よ。

明るくなった下手奥には、茎子が立っている。
葉香1、実乃、それに気づく。

葉香1　　あ。
菜子　　ああ、でもそんな……。母さんにそんなの、やっぱり無理かしら……。そうよね……無理無理……。

音楽、悲しい音楽に変わり、舞台上、主に下手奥、暗くなっていく。
茎子、見えなくなっていく。

葉香1　　あ……。
菜子　　だって母さん、そんなにそういう経験ないのよ……。だから……。

茎子、すっかり見えなくなる。
菜子　　ううん！　でもそんなの、気にしちゃダメね。母さんはこれから生まれ変わるのよ、
新しい人生を歩むのよ……！

楽しい音楽、流れる。舞台上、主に下手奥、明るくなっていく。
茎子、また見えるようになっていく。

菜子　　どこでいい出会いがあるかしら、やっぱりまずは街に出て！

(即座に悲しい音楽で照明は暗くなり茎子見えなくなりつつ)

ああでも母さんバーとかあんまり行ったことないし。

(即座に楽しい音楽で照明明るくなり茎子見えつつ)

やっぱり趣味の場とかがいいわよね!

(即座に悲しい音楽で照明暗くなり茎子見えなくなりつつ)

ああでも母さん趣味とかぜんぜんないし。

(即座に楽しい音楽で照明明るくなり茎子見えつつ)

やっぱりまずはマツチングサイトに登録して!

(即座に悲しい音楽で照明暗くなり茎子見えなくなりつつ)

ああでもマツチするかしら。

(即座に楽しい音楽で照明明るくなり茎子見えつつ)

ううん! まずは男好きする写真を撮って、うんとエロめのプロフィールを

母さん、何言ってるの?

えっ

けい姉ちゃん!(茎子に駆け寄る)

あっ。茎ちゃんあんた、フェードアウトしたんじゃないの?

したよ。

フェードインしたの?

うん。

けい姉ちゃん! 母さんが…!

ん?

母さんが、一人になるって…!

ああうん。母さんは一人でしょ(菜子を見る)

えっ(菜子を見る)

茎ちゃん、あんたも、

(自分の肩から生え出したパセリを見て) ああ、なんかね。

そんなことより大変だよ。聞いたでしょ? ウチの物件の取り壊し。

あー。

危険だからって。強制的に解体されるって。

そうみたいね。

それが今、来てる。向かってる。ウチに。

え、今?

うん、次が杉並区で、最初は久我山で、

え、そんなすぐなの? 行政のくせに。

うん、今、こっちに向かってる。

母さん、どうすんの?

え?

ほんとに壊しちゃっていいの?

ダメだよ!

(パセリを指して) 父さん、どうすんの?

(パセリに向かって) ダメだよね!

物音、聞こえる。

茎子

来た。

葉香

母さん!

実乃

父さん!

姉妹、上手奥に対して、身構える。

少ししてから、トイレを流す音が聞こえる。
少ししてから、手を洗うような地味な音、手を拭くような地味な音が、聞こえる。
全員、下手の方を見る。
すると、下手の壁を開けて、爺さんがハンカチで手を拭きながら出てくる。

爺さん (皆が見ているので驚き) あ。なんだ？

菜子 爺ちゃん…、そこに居たの…。

爺さん ああ、ここんとこずっと便秘気味で、さっきようやっと、
うん、知ってる。

菜子 うん？

爺さん 爺ちゃん！(駆け寄って抱きつく)

実乃 ああ、どうした実乃。お。葉香も、茎子も。どうした、なんだ。久々だな。

葉香 ああ、うん。

爺さん (部屋の様子に気づいて) しかしこりゃ何だ、どうしたんだ。

爺さん、下手奥のパセリを見ると、爺さんのお尻にパセリがこんもり生えている。

葉香 (爺さんの尻に対し) あ。

下手奥から、着物を着て扇子を持った初老の男(枝雀)、
上手前から、ちよつと奇を衒ったV系衣装とメイクの男(回鍋肉)、
前髪がやけに長く真っ白な服を着た、奇妙な動きをする男(クスノキ)、
逃げ出て来る。

回鍋肉 やべえよ、なんだよ、助けるよ。

枝雀 なんやぎようさん、けつたいなもんが来るわ。

クスノキ あ、助けて下さい。お願いします。

3人、それぞれ、CDジャケット風のポーズになる。

菜子 誰？

爺さん 枝雀？ 二代目枝雀！

葉香 ホイコーロー？ ウソ！ ホイコーロー！

菜子 え？

茎子 シンジ…！

菜子 なに？

爺さん 探したんだぞ、枝雀！(枝雀に駆け寄る)

枝雀 何ゆうてんの、やめなさい。

葉香 (回鍋肉に駆け寄り抱きつく) 良かった、無事で良かった！

回鍋肉 離せよ。ベットベトに、脂ぎってるぜ。

葉香 ホイコーロー！

茎子 シンジ…(頬赤らめてクスノキに背を向ける)

菜子 (実乃に) なんなの。

実乃 (菜子に) 桂枝雀と、葉ちゃんの好きだった変なアーティストと、
うるさいな、思い出だよ！

葉香 クスノキ 初めまして。クスノキシンジです。今、解体屋がこちらに、

茎子 解体屋?! (と、クスノキを見ると、黄色い悲鳴をあげて、失神する)

菜子 あ。茎ちゃん。

実乃 その解体屋って、

クスノキ はい。お豆腐です。

実乃 お豆腐。

クスノキ いえ。正確には、湯葉です。

実乃 湯葉。

茎子 (意識を取り戻す)

クスノキ ええ。彼らはお豆腐の下請け業者でして、

茎子 下請け?! (と、クスノキを見ると、黄色い悲鳴をあげて、失神する)

菜子 あ。茎ちゃん。

作業員の湯葉たち四人、上手奥からやって来る。

動きはヌラヌラとして、顔はニヤついており、気持ちの悪い喋り方をする。

湯葉1 はあい、お次はこちらですかねえ。

湯葉2 するすると終わらせちゃいますんでねえ。

湯葉3 だからささっと、出てっちゃって下さいねえ。

実乃 湯葉!

湯葉3 おっと。危ないので近づかないで下さいねえ。

湯葉1 やれ。

湯葉2 へい。

湯葉ら、ヌラヌラと近づいて来る。

湯葉1 ゴミや不用品は、こちらで全部処理しますんで。(枝雀の肩を掴む)

湯葉2 ええきれいに、廃棄しますんで。(回鍋肉の肩を掴む)

湯葉3 こんなもん、もう要らないですよねえ。(クスノキの足を掴む)

爺さん やめる、離せ、

葉香1 茎ちゃん、起きて、クスノキさんが、

爺さん 大事なんだよ!

爺さんと葉香1と茎子、湯葉たちに向かっていく。

湯葉たち、ヌラヌラと、スルスルと、それを巧みにかわす。

口々に「やめる」「出てけ」など言いつつ、湯葉を捕まえようと格闘しはじ。

そしてその最中、菜子の声で童謡の替え歌が、素敵な伴奏つきで聞こえてくる。

替え歌 「あるひにんぐ、もりのなかんちゅーぜめ、くまさんにんぶぜめ、であったりらりらん。

皆、徐々に歌に気づいていく。

替え歌 「はなさくもーりーのーみーちんぼこ。くまさんに

葉香1 (遮って) なに?!

音、やむ。

菜子 ああ、ごめん。ポーツとしてた。

葉香1 なに今の、

菜子 え?

女(声) だって退屈なんだもんさ。(低い擦れた女の声)

茎子 誰?

アバズレ的な衣装で、崩れた厚化粧。
ウイスキーのグラスを持ち、片足しかハイヒールを履いていない女、
大爆笑しながらやって来る。

女 (爆笑しながら) 「誰？」って。水島茂かよ！

茎子 え、…誰？

菜子 ああ、母さんの深層心理よ。

爺さん 深層心理？

女 (爺さんの真似をする) 「深層心理？」 「深層心理？」

(大爆笑しながら) って。菊山甚之助かよ！

葉香 1 え、…誰なの？

全員、顔を見合わずが、湯葉1のみ、女の前に歩み出る。

湯葉1 邪魔をしないでもらえませんか。今からここは私たちが

女 うるさいな！(湯葉1に軽く息を吹きかける)

湯葉1 ああ(驚くほど素早く倒れる)

湯葉2 あっ！ 大丈夫か！

湯葉3 おい！ おい！

湯葉2と3が湯葉1に駆け寄ると、

グワングワンと不思議な低音が響き、部屋が徐々に暗くなり、

客席側がおどろおどろしく恐ろしげな照明に、包まれていく。

湯葉2 なんだ…？

舞台上全員、客席側を見る。目を凝らしてよく見る。

菜子 (目を凝らしながら) ああ。ここにあったんだわ。

葉香 1 (目を凝らしながら) え？

菜子 (目を凝らしながら) 母さんの深層心理より、更に奥の、そのまた奥の奥の、

深い深い、ところよ。

音、大きくなってゆき、不安を煽る不協和音や人が動物の声も混じり、

照明、更に奇妙な感じになってゆく。

深層心理の女、思わず悲鳴をあげて上手奥に逃げ去る。

次に湯葉2と3、思わず悲鳴をあげ、湯葉1を抱えて上手奥に逃げ去る。

枝雀 なんですよこれ、(逃げ出す)

回鍋肉 やっべえよ、(逃げ出す)

クスノキ ごめんなさい、(逃げ出す)

葉香 1 あっ枝雀…！

爺さん ホイコーロー…！

茎子 クス…(と、クスノキを見ると、黄色い悲鳴をあげて失神する)

枝雀ら上手奥に逃げ去ると、音と照明、派手にスパークする。

そして音は止み、照明も戻る。枝雀も回鍋肉もクスノキも居ない。
間。

菜子 あーあ。解体屋さん、行っちゃった。
まあいいわ、他に頼みましよう。急ぐわけじゃないし。
枝雀……
葉香 ー ホイコーロー……
茎子 (失神したまま) クスノキさん……
菜子 なに？ また買えばいいじゃない。ブックオフとかで。
葉香 ー ……。
菜子 なによ。
葉香 ー 別に。
菜子 だからほら、あんたもう帰りなさい。茎ちゃんも。
どうせまたフェードアウトするんでしょ。
帰るよ。…つか。ほんとにいいのね？
菜子 なにが。
葉香 ー この家、取り壊して。
菜子 だからそうするって言ってるじゃない。さっきハンコも見つかったし。
葉香 ー オゴ？
菜子 婆ちゃん、今、オゴ・デダガを羽田まで見送りに行ってるから。
葉香 ー え、菜子、今なんて言った、
菜子 ああ、爺ちゃん達にもどこか近くにいいマンションか施設を探すから。
爺さん は…？
菜子 私は一人で住むから。
爺さん 菜子…？
葉香 ー この家、壊すんだってさ。(鞆を取りに行く)
菜子 だってもう古くなっちゃったのよ。あ、大丈夫。毎日、遊びに行くから。ね？
爺さん あ、ああ。
菜子 かえって楽しみじゃない？ だって、
葉香 ー (鞆を取って戻りながら) じゃ、私、帰るよ。仕事に戻る。
菜子 (よく聞こえず) え？

葉香 ー、鞆を肩にかける。小さく音楽が流れ始める。

菜子 ああ、そうね。
葉香 ー じゃね。
菜子 大丈夫。この家がなくなるだけだから。
爺さん ……。
菜子 みいちゃんは母さんと一緒に来るでしょ？
実乃 ……。
菜子 うん。じゃ、まずは着替えましょ。
実乃 (頷く)
葉香 ー じゃね。葉ちゃん、茎ちゃん、爺ちゃん。
爺さん え？ ああ。じゃ、俺も戻るよ。
菜子 うん。頑張ってるね。
爺さん ありがとう。

葉香 ーは上手奥に、爺さんは下手の壁の向こうに、戻っていく。

菜子 じゃ、みんな気をつ…… (唐突にストップモーション)
実乃 ……ん？

葉香 ー …え？ 母さん？ 何？ どうしたの？
爺さん ……どうした？
葉香 ー え…、ちよつと母さん…、（戻ってくる）
爺さん え…、なんだどうした…、（戻ってくる）
葉香 ー ちよつと何？ 何してんの？ …やだ。ちよつと。何とか言っ…（ストップモーション）
爺さん ー？ なんだ葉香、おい、どうした。おい、なあ、何とか言っ…（ストップモーション）

実乃以外、一切動かなくなったまま、音楽、徐々に大きくなっていく。

実乃 え……？ 母さん？ 葉ちゃん？ どしたの？

ねえ、爺ちゃんウンコ漏れるよ。

ねえ、母さん、葉ちゃん、

壁の全てのパセリ、及び、床や箱から生え出したパセリ、
一斉にザワザワと動き出す。

実乃 …え！ …何？

しばらく全てのパセリ、ザワザワと動く。

そして音楽のタイミングで、

菜子、葉香 ー、爺さん、茎子、一斉にブルブルと震え出す。

実乃 えっ、何！ どしたの？

部屋中のパセリと、菜子、葉香 ー、爺さん、茎子、
表情固まったまま、ブルブルと震え続ける。

実乃 ちよつと、どうしたの、

爺さん ああっ……！

実乃 爺ちゃん？

天井から、大量のウンコが降ってくる。

実乃 ああ、爺ちゃん、また！

パセリの震え、ウンコを浴びて、とても激しくなっていく。楽しげになっていく。
菜子、葉香 ー、爺さん、茎子の震えも、激しくなっていく。楽しげになっていく。
震えながら楽しげに、部屋をウロウロし出す。
照明、緑色に変わっていく。

実乃 ちよつと！ ねえ！ 何なの？ どうしたの？ 母さん！

菜子、葉香 ー、爺さん、茎子、ブルブル震えながら実乃に近づいていく、
実乃、逃げながら、床からパセリを一房千切って、そのパセリに向かって言っ。

実乃 ねえ何なの？ 父さん！ ねえ！ ちよつと！

（パセリと菜子らに）ああもう何なの！ 何とか言っよー！

音楽、大きくなり、照明、一面緑色になって、暗転。

FILM (ENDING)

パセリに完全に覆われた廃墟。OPENINGの廃墟か。屋根、壁、ドア、窓、全てがパセリに覆われている。

パセリに完全に覆われた、その室内。

荒れた室内の、天井、壁、床、家具、全てがパセリに覆われている。

リビングを覆い尽くしたパセリ、風に揺られてか、微かに震えている。

アナウンサー ニュースです。

政府が一丸となって取り組んだオリンピック会場と各種新設施設の建設は、ハートフルホームによって、多大な土地の有効利用と大幅なコスト削減を、見事、実現しました。

続々と到着する各国の選手たち。

アナウンサー それらはこれよりオリンピックに向けて、

更に果ての見えない時空を、広げていくということですよ。

柔道やフェンシングの試合会場は果てが見えず、

対戦選手がとても遠いところに居る。

歪んだ陸上トラックの遠くは霞がかかっています、

選手が歪んだり伸び縮みしたりする。

あらゆる競技中の選手たちが、次々と消えたりする。

あらゆる競技場が競技場ごと、消えたりする。

アナウンサー 一方、都内住宅地では、人口の減少と空き家の増加が、加速的に進んでおります。

住宅街。

立ち並ぶ家々が次々と、パセリに覆われた家が変わっていく。

やがて住宅街全体が、パセリになっていく。

キャスト名。舞台上にキャスト一名ずつ出て並び、一礼。

タイトル。全員、去る。

げんこつ団『パセリ』

脚本・演出・映像・音響 一十口裏
振付・演出 植木早苗

出演

植木早苗 春原久子 河野美菜
池田玲子 望月文 三明真実
皆戸麻衣 丹野薫 しじみ
三枝 翠 天笠有紀 藤岡悠美子

照明 山岡茉友子 / 音響オペ 吉田有花 / 映像オペ 信広天音 / 舞台装置 畠山英樹

協力 10・Quatre 涙目キューピー トリコロールケーキ 畠山工務店 株式会社テンカトル 株式会社オフィスチャープ

制作 げんこつ団事務所

もしも本作品を、上演、引用などされる場合には、
ご連絡先とご氏名、その内容を明記のうえ、
必ず左記アドレスまで、ご連絡ください。

たとえ一部分であっても、断わりのないご使用は禁止させていただきます。

info@genkotu-dan.official.jp

(問) 0367548903 げんこつ団事務所